

第四百四條

火ヲ放テ廢屋及ヒ柴
草肥料等ヲ貯フル屋
舎ヲ燒燬シタル者ハ
重懲役ニ處ス

火ヲ放テ人ヲ乘載シ
タル船舶汽車ヲ燒燬
シタル者ハ死刑ニ處
ス

第四百五條

火ヲ放テ人ヲ乘載シ
タル船舶汽車ヲ燒燬
シタル者ハ死刑ニ處
ス
其人ヲ乘載セサル船
舶汽車ニ係ル時ハ重
懲役ニ處ス

○宇都宮縣廳抄事（十一年七月十三日付電報）
 火ヲ放テ他人ノ萱場ノ萱草ヲ燒キタル者アリ右ハ刑法第四百六
 條ノ竹木ノ内ニ含蓄スルヤ
 伺令伺ノ蕪草ヲ燒燬スルコ止ル者ハ刑法第百四十九條ニ依
 テ處斷スヘキモノトス

第四百六條
 火ヲ放テ山林ノ竹木
 田野ノ穀麥又ハ露積
 シタル柴草竹木其他
 ノ物件ヲ燒燬シタル
 者ハ輕懲役ニ處ス

第四百七條
 火ヲ放テ自己ノ家屋
 ナ燒燬シタル者ハ二
 月以上二年以下ノ重
 禁錮ニ處ス

放火失火ノ罪

七百六十九

第四百八條
放火ノ罪ヲ犯シ輕罪
ノ刑ニ處スル者ハ六
月以上二年以下ノ監
視ニ付ス

若シニ
放火ノ罪ヲ犯シ
重罪ノ刑ニ處スル
者ハ
三年以上
七年以下ノ監
視ニ付ス

第四百九條

火ヲ失シテ人ノ家屋
財産ヲ燒燬シタル者
ハ二圓以上二十圓以
下ノ罰金ニ處ス

○若松始審廳判事

(十四年十二月一日請訓)
(十五年一月二十六日內訓)

第二條刑法第四百九條ニ火ヲ失シテ人ノ家屋財産ヲ燒燬シタル者ハ云々ト之レアリ自己所有ノ家屋財産ナル上ハ抵當典物トナシ又ハ書入質トシテ他人へ渡シ中ト雖モ本條ニ據リ處斷スヘキモノニアラサル勿論ニ候ヤ

内訓意見ノ通

第二條家族ニ於テ戸主所有ノ家屋即チ其居住セル家屋ヲ燒燬シタル者ハ本條ノ問フ處ニアラサル勿論ニ候ヤ

内訓刑法第三百七十七條ノ親屬ニ係ルキハ意見ノ通

第三條異籍異産ノ父母ニシテ子ノ家ニ寓居中其家ヲ燒キタルモ其所有ニアラサル以上ハ本條ニ據リ處分スヘキヤ

内訓祖父母父母ハ異籍異産ニ論ナク本條ノ問フ處ニアラス

第四條雇人其家長ノ家ヲ燒燬シタル者ハ仮令同居ニ係ルト雖モ本條ニ據リ其罪ヲ問フヘキハ勿論ニ候哉

内訓意見ノ通

第五條共有ノ家屋ヲ燒キタルモノモ本條ニヨリ處分シ可然ヤ
内訓意見ノ通

第六條一寺ノ住職其寺ノ堂塔ヲ燒キタルモノ自己ノ所有ニアラサル以上ハ本條ニ據リ處分シ可然哉

内訓意見又通

第七條縱ヒ他人ノ所有ニ係ル財産ト雖モ其抵當典物トナシ又ハ寄托ヲ受ケテ領置タルモノ又ハ借業ケ置キタルモノヲ燒燬シタル如キハ本條ニ所謂財産中ニ入ルヘキモノトシ之ナシ不問ニ置キ可然ヤ

○滋賀縣 十五年十月廿六日伺。全年五月廿日付。内訓本條ニヨリ處分スヘシモノニ當リ其處分ニ對シテ

火ヲ失シタル山林竹木田野ノ穀麥又ハ露積シタル柴草竹木其他ノ物件ヲ燒燬シタル時亦第四百九條ニヨリ處分スヘキ哉

指令伺又通

○福井縣 十五年二月廿日伺。全年二月十三日付

第一條茲ニ官國幣社縣鄉村社及共有ノ家屋管公私立學校ノ管守人火ヲ失シタル該社及自家屋管ニ學校領前燒燬タル時其管守人第三條前條ニ據リ處分スヘキヲ六時管守人火災失火ノ管守人第三條稅居人其居住ノ家屋ニ火ヲ失シタル時

不ノ罰金ニ處ス
ハ二罰以上二十罰以下
檢査官
火災失火ノ管守人ノ懲罰
第四百九條

第四條親族隣佑其他ノ者一時留守居ノ依托ヲ受ケ其家屋ニ火ヲ失シ燒燬ニ致シタル時

第五條期限ノ有無ヲ不問給料ヲ定メ雇ハレタルモノ其雇主ノ家屋ニ火ヲ失シテ燒燬ニ致シタル時

前數條ノ場合ハ何レモ刑法第四百九條ノ精神ニ合致シタル義ニ可有之哉將タ法律ニ正條ナキヲ以テ不問ニ置キ可然哉

指令末項前段伺ノ通但第四條中親族トアリ其刑法第三百七十七條ニ記載シタル親族ニ係ル者ハ同法第四百九條ノ問フ所ニアラサル儀ト心得ヘシ

○群馬縣 十五年二月二日伺。全月二十日付

刑法第四百九條火ヲ失シテ人ノ家屋財産ヲ燒燬シタル者云々トアリ右ハ人ノ家屋ニ延燒セサルモ隣家他人ノ所有ニ罹ル竹木或ハ穀麥等ヲ燒燬シタルモ本條ニヨリ處斷相成候儀ト心得可然ヤ指令伺ノ通

○秋田縣 十五年二月廿四日伺。全年三月廿九日付

茲ニ一村共有ノ水車アリ其共有者二人(村內共有者輪番ニテ當番ナル時ハ自然該小)輪番ニ當リ該夜火ヲ失シ水車小屋一棟屋ノ監守者ノ如キモノ

放火失火ノ罪

ヲ燒燬ヒリ右ハ不分明ナリト雖モ一已ノ所有ニアラス即チ人ノ
家屋ヲ燒燬シタル者トシ刑法第四百九條ニヨリ罪ヲ問フヘキカ
指令伺ノ通

○新潟縣 十五年三月十七日伺。全年全月三十一日付

刑法第四百九條ニ火ヲ失テ人ノ家屋財產ヲ燒燬シタル者トア
レレ官署及ヒ學校銀行會社等ニ在テ宿直者火ヲ失シタル共ハ官
吏ハ懲戒例ニヨリ其他ハ夫々ノ責アルヘキヲ以テ人ノ家屋財產
ヲ燒燬シタル者トシ本條ニ據ルノ限リニハ無之候哉

指令刑法第四百九條ニヨリ處分スヘキ儀ト心得ヘシ

前條モシ失火條ニ據ル者トセハ其協同中輪番ヲ以テ宿直スル者
ノ如キハ株主ノ一人ナレハ矢張他ノ株主ニ對シ財產ヲ燒燬シ
タルノ責アルモノトスヘキ哉將タ之レ等ハ自家ト見做スヘキヤ
指令刑法第四百九條ニヨリ處分ス

○大曲治安廳判事 (十五年三月廿三日請訓)

刑法附則第五十九條ニ人ノ名譽若クハ殺傷ニ關シタル損害其他
犯罪ノ爲メ現ニ生シタル損害ハ其賠償ヲ請求スルコトヲ得但失火
ハ此限ニ在ラズト之レアリ右ハ賃借主ノ其借受ケシ家屋ト又ハ

無賃ニテ各町村共有ノ家屋ヲ郡役所若クハ戸長役場等ニ借上ケ
相用ヒ失火シテ之ヲ燒燬スルト又或ハ自宅ニ火ヲ失シ人ノ家屋
ニ延燒スルトノ別ナク渾テ失火ハ賠償ヲ請求スルノ限リニアラ
サルヤ

内訓刑法附則中失火ノ件ニ付請訓ノ趣ハ其見解ノ通

○新潟縣 十五年四月廿二日伺。全年五月二日付

茲ニ甲ナル者アリ隣家ヲ買取リ自己ノ所有トナシ而カシテ乙ナ
ル者へ貸渡シ置ケリ尤モ家稅ヲ納ル然ルニ所有者即甲火ヲ失シ
テ借受人即チ乙ノ宅舎ニ延燒シ其半ヲ燒燬セシム併シナカテ乙
ノ財產ハ一品モ燒燬スルニ非ス是等ハ譬ヒ乙ノ宅舎ニモセヨ其
所有甲ニ屬スル以上ハ刑法中第四百九條ニヨリ處斷ノ限リニ無
之候哉又ハ甲ノ所有ナルモ家稅ヲ納レ仕用ノ權ヲ乙ニ付與シタ
ルモノニ付人ノ家屋ト見做シ同條ニ依ルヘキ儀ニ候哉疑義ヲ生
シ候

指令前段伺ノ通

[Faint, illegible text in the right-hand column]

第四百十條

火藥其他激發ス可キ
物品又ハ煤氣井蒸氣
罐ヲ破裂セシメ人ノ
家屋財産ヲ毀壞シタ
ル者ハ其故意ニ出ル
ト過失トチ分テ放火
失火ノ例ニ照シテ處
斷ス

[Faint, illegible text in the left-hand column]

第八節 決水ノ罪

第四百十一條

堤防ヲ決潰シ又ハ水
閘ヲ毀壞シテ人ノ住
居シタル家屋ヲ漂流
シタル者ハ無期徒刑
ニ處ス
若シ人ノ住居セサル
家屋其他ノ建造物ヲ
漂流シタル者ハ重懲
役ニ處ス

第四百十二條

堤防ヲ決潰シ水閘ヲ
毀壞シテ田圃礦坑牧
場等ヲ荒廢シタル者
ハ輕懲役ニ處ス

○前橋輕罪廳檢事 十五年十月廿日伺。全月廿八日付
第二條稼付ノ爲メ蓄ヘタル他人ノ養田水又ハ苗代水等ノ田畔ヲ
切破リ自己ノ田地ヘ引キ取リタル者ハ刑法第三百六十六條ヲ適
用スヘキカ又ハ刑法第四百十三條ニ依リ處分スヘキ者カ
指令第二條刑法ノ問フ所ニ在ラヌ

第四百十三條

他人ノ便益ヲ損シ又
ハ自己ノ便益ヲ圖ル
爲メ堤防ヲ決潰シ水
閘ヲ毀壞シ其他水利
ヲ妨害シタル者ハ一
月以上二年以下ノ重
禁錮ニ處シ二圓以上
二十圓以下ノ罰金ヲ
附加ス

第四百十四條

過失ニ因テ水ヲ害起
シタル者ハ失火ノ例
ニ照シテ處斷ス

第九節 船舶ヲ覆没スル罪

第四百十五條

衝突其他ノ所爲ヲ以テ人ヲ乗載シタル船舶ヲ覆没シタル者ハ死刑ニ處ス但船中ハ無期徒刑死亡ナキ時ニ處ス

船舶ヲ覆没シタル者ハ死刑ニ處ス但船中ハ無期徒刑死亡ナキ時ニ處ス

第四百十六條

前條ノ所爲ヲ以テ人ヲ乗載セザル船舶ヲ覆没シタル者ハ輕懲役ニ處ス

前條ノ所爲ヲ以テ人ヲ乗載セザル船舶ヲ覆没シタル者ハ輕懲役ニ處ス

○神奈川縣 十四年十月五日伺。同月廿一日付
 刑法第四百十七條中其他ノ建造物トアルハ學校病院又ハ土藏物
 置キ等ヲ指スモノニシテ路傍ニアル揭示場(官私有ヲ分ク)即チ二本
 ノ柱ヲ立テ僅カノ屋根ヲ附タルモノ、如キハ該條中ニ合蓄セサ
 ルモノト相心得可然哉
 指令伺之通

○茨城縣 十五年二月十四日伺。同月廿八日付
 人ヲ毆打創傷シ又ハ人ノ家屋物品ヲ毀損シ及ヒ動植物ヲ害スル
 者ハ刑法第九十二條以下及ヒ第四百十四條以下ヲ適用スヘキハ
 勿論ノ所右ハ專ラ凡人ヲ指稱セシ儀ニテ之ヲ親屬ニ適用スルヲ
 得サルモノ、如シ若シ刑法第百十四條ニ掲ケアル各居ノ親屬互
 ニ毆打創傷シ又ハ家屋物品ヲ毀損シ動植物ヲ害スル者アルハ
 法ニ明條無キヲ以テ其罪ヲ論セサル儀ト相心得可然哉將タ親屬
 ト凡人トヲ分タス總テ適用スヘキ儀ニ所有之哉
 指令伺之趣毆打創傷ノ罪ハ親屬ニ係ルモ凡人ト同シク論シ家
 屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪刑法第三百七十七條ニ
 掲ケタル親屬ニ係ルハ同條ニ準シ其罪ヲ論セサル儀ト心得

第十節 家屋物品ヲ
 毀壞シ及ヒ動植物
 ナ害スル罪

第四百十七條

人ノ家屋其他ノ建造
 物ヲ毀壞シタル者ハ
 一月以上五年以下ノ
 重禁錮ニ處シ二圓以
 上五十圓以下ノ罰金
 ヲ附加ス
 因テ人ヲ死傷ニ致シ
 タル者ハ毆打創傷ヲ
 各本條ニ照シ重キニ
 從テ處斷ス

ヘシ

○鹿兒島縣警部 十五年九月廿一日請訓。全年十月三日内訓
 第八條第四百十七條人ノ家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シタル者ハ云
 ヲトアリ若シ戸障子襖燬(其物質移轉自在ノ者)等ヲ毀壞シタル
 者ハ第四百二十一條ニ依ル可キ歟又ハ家屋構造ノ一部ニ屬スル
 者ニ付同シク本條ニ依ル可キ歟若シ第四百二十一條ニ依ルトセ
 ハ土壁等(瑣細ノモノト雖モ其物質家屋構造ノ一躰ヲ爲シ動か
 ス可シタルモノ)ヲ毀壞スルハ本條ニ依リ可然哉
 内訓第八條家屋其他ノ造物ノ一部ト見做スヘキ者ハ戸若クハ
 壁ノ如キ類ト雖モ刑法第四百十七條ニ依リ又障子若クハ襖等
 ノ類ニシテ家屋一部ト見做スヘカラサル者ハ第四百二十一條
 ニ依リ處分スヘキ者トス

家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

ニ對シテ罰金ニシテ罰スルハ、一圓以上十圓以下ニシテ罰スル

ノ罰ニシテ罰金ニシテ罰スルハ、一圓以上十圓以下ニシテ罰スル

ノ罰ニシテ罰金ニシテ罰スルハ、一圓以上十圓以下ニシテ罰スル

ノ罰ニシテ罰金ニシテ罰スルハ、一圓以上十圓以下ニシテ罰スル

ノ罰ニシテ罰金ニシテ罰スルハ、一圓以上十圓以下ニシテ罰スル

ノ罰ニシテ罰金ニシテ罰スルハ、一圓以上十圓以下ニシテ罰スル

ノ罰ニシテ罰金ニシテ罰スルハ、一圓以上十圓以下ニシテ罰スル

ノ罰ニシテ罰金ニシテ罰スルハ、一圓以上十圓以下ニシテ罰スル

ノ罰ニシテ罰金ニシテ罰スルハ、一圓以上十圓以下ニシテ罰スル

ノ罰ニシテ罰金ニシテ罰スルハ、一圓以上十圓以下ニシテ罰スル

ノ罰ニシテ罰金ニシテ罰スルハ、一圓以上十圓以下ニシテ罰スル

ノ罰ニシテ罰金ニシテ罰スルハ、一圓以上十圓以下ニシテ罰スル

ノ罰ニシテ罰金ニシテ罰スルハ、一圓以上十圓以下ニシテ罰スル

ノ罰ニシテ罰金ニシテ罰スルハ、一圓以上十圓以下ニシテ罰スル

ノ罰ニシテ罰金ニシテ罰スルハ、一圓以上十圓以下ニシテ罰スル

ノ罰ニシテ罰金ニシテ罰スルハ、一圓以上十圓以下ニシテ罰スル

ノ罰ニシテ罰金ニシテ罰スルハ、一圓以上十圓以下ニシテ罰スル

ノ罰ニシテ罰金ニシテ罰スルハ、一圓以上十圓以下ニシテ罰スル

ノ罰ニシテ罰金ニシテ罰スルハ、一圓以上十圓以下ニシテ罰スル

ノ罰ニシテ罰金ニシテ罰スルハ、一圓以上十圓以下ニシテ罰スル

ノ罰ニシテ罰金ニシテ罰スルハ、一圓以上十圓以下ニシテ罰スル

ノ罰ニシテ罰金ニシテ罰スルハ、一圓以上十圓以下ニシテ罰スル

ノ罰ニシテ罰金ニシテ罰スルハ、一圓以上十圓以下ニシテ罰スル

ノ罰ニシテ罰金ニシテ罰スルハ、一圓以上十圓以下ニシテ罰スル

ノ罰ニシテ罰金ニシテ罰スルハ、一圓以上十圓以下ニシテ罰スル

第四百十八條
 人ノ家屋ニ屬スル牆
 壁及ヒ園池ノ裝飾又
 ハ田圃ノ樊圍牧場ノ
 柵欄ヲ毀壞シタル者
 ハ十一日以上三月以
 下ノ重禁錮ニ處シ又
 ハ二圓以上二十圓以
 下ノ罰金ニ處ス

○愛知縣 十五年二月八日伺。同月廿五日付

爰ニ社寺境内ノ樹木ヲ無願或ハ出願ノ後其指令ヲ待タスシテ伐採シ該社寺修繕ノ用ニ供シタル者アリ右ハ明治六年第二百二十五号公布ノ旨モ有之假令該社寺修繕ノ用ニ供スルモ擅ニ伐採セシ以上ハ刑法第四百九條人ノ稼穡竹木ヲ毀損シタル者トアルニ依リ同罪可相成儀ニ候哉又ハ其情單ニ毀損スルモノト異ナルヲ以テ同罪ノ限ニ無之候哉

指令後段伺之通

○鳥取始審廳判事

(十五年十二月十一日請訓)

第一條明治七年本省第三十号御布達ニ官林及ヒ社寺境内ノ官有ニ係ル竹木ヲ擅伐シテ民費ニ係ル橋梁及ヒ社寺修繕等ニ用ユル者ハ違令輕重ニ問フ云々ト有之右ハ新法施行後ハ刑法第三百七十二條第三百七十六條ヲ適用スヘキ儀ト心得可然哉

内訓第一條刑法第四百十九條ヲ以テ論ス可キ者トス

(理由)官林及ヒ社寺境内ノ官有ニ係ル竹木ヲ擅伐シテ橋梁及ヒ社寺修繕等ニ用ヒタル件其形テハ竊盜ヲ以テ論ス可キ者ノ如シト雖モ其情ヲ察スレハ全ク盜情アル者ニ非ズ即チ

第四百十九條

人ノ稼穡竹木其他需用ノ植物ヲ毀損シタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

ノ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

盜罪ト爲キ可キ性質ノ一部ヲ欠ク者ナルヲ以テ之ヲ新刑法ニ照セハ本條ヲ以テ論スルヲ相當ト考量ス

第四百二十條

土地ノ經界ヲ表シタル物件ヲ毀壞シ又ハ移轉シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百二十一條

人ノ器物ヲ毀棄シタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

○神奈川縣 明治十四年八月三日伺。同年十二月二十二日付
第一條刑法第六十二條（靜謐ヲ害スル罪第六節）ニ道路橋梁河溝港埠ヲ損壞シテ往來ヲ妨害スルノ罪名アリテ渡船ヲ損壞シテ往來ヲ妨害スルノ罪名無之右ハ道路橋梁等ヲ損壞スルト齊シキモノト被考候得共明文無之以上ハ地方違警罪中へ加へ置キ可然哉
指令第一條渡船ヲ損壞スル者ハ刑法第四百二十一條ニ依リ處分ス可キ儀ト心得可シ
（理由）渡船ヲ損壞シテ往來妨害スル者ハ別紙參事院回答ニ依リ御指令ニ及ハレ可然哉

家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ勳植物ヲ害スル罪

第四百二十二條
人ノ牛馬ヲ殺シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○群馬縣 十五年二月二十日伺。全年三月六日付
刑法第四百二十二條第四百二十三條ニ牛馬又ハ家畜ヲ殺スモノ處分ノ儀相見ヘ候處爰ニ甲家ノ家畜乙家ニ至リ盜ニ喰等ノ所業アリ乙家ノ主之ヲ撲殺スル等ハ甲家ヨリ告訴ヲ不得儀ト心得可然哉又禽獸ノ性質元來自他ノ差別ヲ辨知スルナキニ依リ之ヲ撲殺シタル者ハ該條ニヨリ處分スヘキ等ニ候哉尤此場合ト雖モ家畜ノ目標アルカ又ハ誰某ノ家畜タルヲ認知スルモノニ限り所分スヘキ筋ニ候哉此段相伺候也
指令伺之趣告訴ヲ爲スヲ得ル儀ト心得ヘシ
○群馬縣 十五年二月十四日伺。同月四日付
本年二月廿日付ヲ以テ刑法第四百廿三條ノ場合假令ハ甲ノ家畜乙ノ家ニ來リ其所有物ヲ喰ヒ損害ヲ起セシニヨリ乙家主其場ニ於テ其家畜ヲ撲殺セシ時甲ハ乙ニ對シ告訴ヲ爲スヲ得ルヤ否ノ伺ニ告訴ヲ爲スヲ得ヘキ旨御指令有之依テ考案候處凡ソ家畜ト稱スルハ人ト馴レ人ノ住所ニ於テ人ノ側ニ生活スル所ノモノヲ言フナルヘシ試ニ佛國刑法第四百五十四條ノ解釋ニ據ルニ法律ハ動物ノ畜主ノ土地家屋ニ於テノ家畜ノ動物ヲ保護ストアリ

第四百二十三條
前條ニ記載シタル以外ノ家畜ヲ殺シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

○群馬縣 十五年二月十四日伺。同月四日付
本年二月廿日付ヲ以テ刑法第四百廿三條ノ場合假令ハ甲ノ家畜乙ノ家ニ來リ其所有物ヲ喰ヒ損害ヲ起セシニヨリ乙家主其場ニ於テ其家畜ヲ撲殺セシ時甲ハ乙ニ對シ告訴ヲ爲スヲ得ルヤ否ノ伺ニ告訴ヲ爲スヲ得ヘキ旨御指令有之依テ考案候處凡ソ家畜ト稱スルハ人ト馴レ人ノ住所ニ於テ人ノ側ニ生活スル所ノモノヲ言フナルヘシ試ニ佛國刑法第四百五十四條ノ解釋ニ據ルニ法律ハ動物ノ畜主ノ土地家屋ニ於テノ家畜ノ動物ヲ保護ストアリ

家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植ヲ害スル罪

是乃家畜ノ畜主所有地内及ヒ家屋ヲ離ルレハ既ニ家畜タルノ性質ヲ有セサルノ謂ナラシ然ラハ故ナクシテ殺ス者ノ罪ヲ論スルハ辨ヲ俟タスト雖モ畜主所有地外及ヒ家屋外ニ於テ人ノ所有物ニ損害ヲ起セシ家畜ヲ殺スカ如キハ刑法上罰スヘキ所爲ト心得スシテ可然ヤ更ニ相伺候也

指令伺ノ概畜主ノ所有地外ト雖モ他人ノ家畜タルヲ知テ之レヲ殺ストキハ刑法ニ問擬ス可キモノトス

(理由) 佛國刑法ニ於テハ其第四百五十二三四條ニ於テ人ノ畜類ヲ殺スモノヲ畜主ノ所有地ニ於テスルト否トニ因テ其刑ヲ區別セシト雖モ新刑法ニ於テハ之ヲ區別セサルヲ以テ苟モ家畜ト名付スルヲ得ル者ハ之ヲ殺ストキハ第四百二十三條ニ從ヒ處分ヘキ儀トス

○高田始審廳判事

十五年六月八日質問
全年六月廿六日回答

甲ヨリ地所ヲ乙へ金五十圓ニ入質致シ年期明キ不受戻ニ付該地ハ約ノ通流地トナリ地券ハ乙ノ名受ケニ相成タリ然ルニ爾後二年ヲ經テ甲乙示談ノ上右地所ハ乙ヨリ甲へ買戻スヘクノ返リ證書ヲ差入レ而シテ仍ホ同日ニ増價七十圓ニテ乙ニ賣渡ス示談ニ及ヒ其實渡證書(買戻ノ相談相替タル處仍ホ賣渡云々ヲ明記シタリ)ヲ乙へ差入レタリ但買戻返リ證書ハ當時甲ニ於テ所持致セリ然ル處其後乙ニ於テ甲ノ家ニ到リ兼テ渡シ置キタル所ノ右買戻返リ證書ヲ致一覽度申入レ甲ハ其意ニ任セ直ニ一覽致サセタリシニ乙ハ之ヲ側ラコ在ル圍爐裏ノ燃火ニ投シ燒棄シタリ因テ甲ハ該證書ヲ暴ニ燒棄セラレシト甚タ不法ノ所爲トナシ其所爲ヨリ右證書ヲ更ニ乙ヨリ差入レヘク請求致シ度併シテ告訴致シタリ而テ爾後示談ノ上燒棄シタル處ノ返リ證書ハ乙ニ於テ相認メ更ニ甲ノ方へ差入レタルニ付甲ニ於テ事實該地所ハ賣渡證書ヲ乙ノ方へ相渡賣買結約ナシタルモノナルヲ以テ證書火中セラレシ件ノ告訴ハ直チニ拋棄シタリ又火中セラレ當時ハ増價金ハ交收未済ノ處爾後其價金ハ己ニ交收相濟ミタリ

第四百二十四條

人ノ權利義務ニ關スル證書類ヲ毀棄滅盡シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前案二個ノ説アリ一ハ火中セシモノカ最後ノ賣渡証ヲ隱匿シ前キノ入質證ニシテ流地ナシタルモノトシ右賣渡ノ増價ヲ渡サ、ルキニ至リテハ火中ノ返リ證ハ權利義務ニ關スルモノニ付刑法第四百二十四條ニ該スルモノト又一ハ火中ノ所爲ハ不法ナルモ己ニ火中ノ證ハ最後ノ賣渡証ニテ効力ハ渾テ蟬脱シ一ノ反古ノミナラス最初ヨリ甲乙双方ニ於テ入質爾來賣渡證書交收シタル手續ニ至ルマテ互ニ異議ヲ生シタルトナシ就中乙ニ於テ賣渡証ヲ隱匿スル處ノ情狀聊カ無之ヲ以テ觀レハ一方ノ説ノ如ク火中ニテ増價ヲ渡サカト希圖スルモノトノ想像ヲ以テ罰スルモノニ非スト但甲ニ於テ火中セシ處ノ證ハ無効ノモノナルヲハ承知致シタル儀ナルモ己ノ所有ノ証ヲ暴ニ燒棄スルヲ以テ不法ノ所爲トナシ告訴セシト又乙ニ於テ火中セシ者ハ前キニ返リ証ヲ甲へ渡シ置キタルヲ以テ後ノ賣渡証アルモ甲カ一端右返リ証ヲ買戻シ而シテ賣渡ノ手續キニ及ハレテハ甚タ手數繁冗致シ迷惑ノ儀ト心得違ヒ致シ斯ノ舉動ニ及ヒタル旨陳述セリ

回答地所賣戻返リ證書ヲ燒棄シタル者處分方御質議ノ趣右買戻證書ハ甲者カ更ニ地所ヲ増價ニテ乙者ニ賣渡シタル事實ヲ

家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

証明スル端緒ナルヘキモノニ付乙者ガ之ヲ燒棄シタル所爲ハ
惡意ニ出テ認ムルキハ刑法第四百二十四條ヲ以テ論スル
ニ儀ヲ思考候
○私前始審應檢事（十五年九月十九日請訓）
刑法第四百二十四條ハ權利義務ニ關スル証書類ヲ毀棄滅盡シ
タル者ニアルヲ除クノ外一切ノ私書ヲ毀棄スルノ明文無之右ハ
人ノ器物ヲ毀棄シタル者ヲ以テ論スヘキヤ或ハ私書偽造ノ中ニ
含蓄スル儀ニ候哉
内訓請訓ノ趣權利義務ニ關スル証書類ヲ除クノ外一切ノ私書
ヲ毀棄シタル者ハ刑法ノ問フ所ニアラス但器物ト看做ス可キ
者ハ格別ナリトス

○滋賀縣警部 十四年十一月 質問。全年十二月六日回答
刑法第四編違警罪目ニ無規則ヲ遵守セズ云々又ハ規則ニ違背シ
云々等以罪名アリ右規則ナルモ現行公布ナキモノハ縣限適用
宜取締規則ヲ定メ施行シ之ニ違フ者ハ違警罪各本條ニ據リ處
罰可然ヤ
○回答規解ノ通
（理由）刑法第四編違警罪目ニ規則ヲ遵守セズ又規則ニ違
背ナル者云々ハ正條アルハ政府ヨリ發行シテ規則ノ
施行年限ヲ示シ同級官衙ヨリ布達シテ規則ニ背キタル者
ハ此ニ合著ス
○愛媛縣 十四年十二月十五日問。全年十二月九日付
來。明治十五年一月一日ヨリ新法御施行ニ付テハ同日以後公布
布達并ニ縣ノ條規ニ違スルモ如何處分可致哉別ニ處分ノ道無
之候也、本縣限施行ノ違警罪目ニ相和加計相當處分致シ不苦哉
ニ指令伺之趣縣ノ條規ニ罪犯スル者ハ縣限ヲ施行ノ違警罪目中
ニ在テ相當處分スルモ苦カラス其他公布公達ニ違犯スルモ
違警罪目中ニ加ヘ差支ナキモノハ又同様處分シ不苦

第四編 違警罪

第四百二十五條

左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
一規則ヲ遵守セズシテ火藥其他破裂スヘキ物品ヲ市街ニ運搬シタル者
二規則ヲ遵守セズシテ火藥其他破裂スヘキ物品又ハ自ラ

違警罪

儀ト心得シマ
 ○群馬縣 十五年二月二日伺。全月二十日付。刑法第四百二十五條第十一ノ住居セサル家屋トアル路傍ノ堂宮或ハ田野ニアル収納小屋等合蓄スル儀ニ可有之哉又ハ看守者ノ有無或ハ戸締ノ有無ニ依リ區別スル儀ニ可有之哉
 指命前段列記ノ堂宮収納小屋ハ戸締アルト否ト分タヌ都テ住居セサル家屋中ニ包含ス但看守者アリト雖モ他所ヨリ看守スル者亦同シ
 ○青森縣 十四年十一月廿一日伺。全年十二月十三日付。刑法第四百二十五條第十二項定マリタル住居ナク平常營生ノ産業ナクシテ諸方ニ徘徊スル者トアリ右定リタル住居ナク云々ハ其在籍ノ有無ヲ問ハス足跡定處ナク浪流スル者ト心得可然ヤ
 指命伺ソ通
 ○群馬縣 十五年二月二日伺。全月廿日付。刑法第四百二十五條第十三ニ依リ處分セザル官許ノ墓地外ニ私ニ埋葬スル儀他故障無之ニ於テ改葬ノ申渡メ爲メ不及儀ト心得可然ヤ

- 火ヲ發スルキ物品ヲ貯藏シタル者
- 三官許ヲ得ヌシテ烟火ヲ製造又ハ販賣シタル者
- 四人家稠密ノ場所ニ於テ濫ニ烟火其他火器ヲ玩ヒタル者
- 五蒸氣器械其他烟筒火竈ヲ建造修理シ及ヒ掃除スル規則ニ違背シタル者
- 六官署ノ督促ヲ受ケ

指命伺ソ通
 ○兵庫縣 十五年二月廿五日伺。二月二十日付。明治十四年第四十四号布告ニヨリ違警罪ノ審判ニ關シテ切ノ手續ニ實際已ムテ得サル場合ニ於テハ當分ノ内便宜取計フコト得ヘキ旨ニ付証人宣誓ノ如キモ亦便宜取計フコト得ルモノ、如シ果シテ然ラズ若シ宣誓ヲ爲サシメタル証人ノ陳述ハ仮令刑法第二百二十五條第四項ニ該ルニキ時ト雖モ之ヲ罰スルコトヲ得サレ儀ニ候哉
 指命宣誓ヲ爲サシメサル証人ハ刑法ニ依テ罰スルノ限アラズ
 ○青森縣警部 十五年三月二日問合。全月日回答
 第三條滿二十歳以上ノ瘋癲人等私宅鎖鑰スル儀其父兄ヨリ出願地方官ニ於テ許否スル旨本縣限リ規則ヲ設クルヲ得ルハ勿論ノ儀ニ候哉
 回答二十歳以上以下ヲ分タヌ瘋癲人ヲ私宅ニテ相當ノ取締ヲ爲メ度旨出願セシ者アルハ之ヲ許否タルノ規則ヲ縣廳限リ設クルハ妨ナカルヘシ

- テ崩壊セシタル家屋牆壁ヲ修理シ爲メタル者
- 七官許ヲ得ヌシテ死屍ヲ解剖シタル者
- 八自己ノ所有地内ニ死屍アルコトヲ知テ官署ニ申告セズ又ハ他署ニ移シタル者
- 九人ヲ毆打シテ創傷疾病ニ至ラサル者
- 十密ニ賣淫ヲ爲シ又ハ其媒合容止ヲ爲

違警罪

○兵庫縣 十五年二月 日伺。全年三月十三日付

第二條刑法第四百三十五條第十三項全第四百二十七條第三項及同第四百五十八條第九項後半ノ犯罪ハ現行ニ非サレハ問ハサル儀カ

但非現行犯ニ係ル者ハ証憑得ルニ難キトヨク實際處罰ハ

證憑ヲ得ルニ難ク且非現行ニ係ル者ハ罰則ナルモ不都合ナ

ル者アリ也刑法中其明文ナク又種類ニ從ヒ區別ヲナサント

スルハ頗ル困難ナルニ付現行非現行ニ拘テス罰則ニ係

ル者ハ其罪中最低罪ナレハ現行犯ヲ除クノ外ハ其

他ノ刑罰ヲ得ルヲ以テ實際苛酷ニ涉ル弊ハナカルベシ

○警視總監 十五年五月六日伺。全年三月十八日付

第二條刑法第四百三十五條第一項第三項第三項犯罪係ル物品

ハ禁制又ハ犯罪ニ供シタル物件トモ看做シ難ク沒収ノ限ニ

在テ非現行者ハ心得可然哉

○千葉縣 十五年四月六日伺。全年五月十五日付

刑法第四百二十五條第六項第八項及第四百二十九條第六項ニ官

署トアルハ局長役場モ合著シ居ル儀ハ心得可然ヤ

指令伺之通

○新潟縣 十五年一月十三日電報伺。全年五月三日付

刑法第四百二十五條ノ十三同ノ四百二十七條ノ埋葬ノ文字

中ニ火葬ノ事モ包含セシヤ地方違警罪編制ノ都合アリ急キ御明

示ヲ仰シ

指令刑法第四百二十五條ノ第十三並ニ同第四百二十七條ノ第

十項ハ火葬モ含有スル儀ハ心得ヘシ

シタル者

十一人ノ住居セサル

家屋内ニ潛伏シタル者

十三定リタル住居ナク平常營生ノ産業

ナクシテ諸方ニ徘徊スル者

十三官許ノ墓地外ニ於テ私ニ埋葬シタル者

十四違警罪ヲ犯人ヲ曲庇スル者但被告人

シタル者

偽證ノ爲ノ刑法免

カレタル時ハ第二

百十九條ノ例ニ從

十四年九月廿一日

司法省達

丁十三号

陸海軍人東京府下ニ於テ違式註達ノ罪ヲ

犯シタル者處分ノ儀ニ付太政官ヨリ別紙

ノ通御達有之條條此旨爲心得相達候事

八百三十五

問 右條第二項ニ於テハ運搬ヲ罰シ第二項ニ於テハ貯藏ヲ罰シ

第三項ニ於テハ製造販賣ヲ罰スルモノナリ故ニ其物件ハ之ヲ

沒収スルヲ得ヌ火藥烟火等ハ犯罪構成ノ元素ナリ

○千葉縣 十五年四月六日伺。全年五月十五日付

刑法第四百二十五條第六項第八項及第四百二十九條第六項ニ官

署トアルハ局長役場モ合著シ居ル儀ハ心得可然ヤ

指令伺之通

○新潟縣 十五年一月十三日電報伺。全年五月三日付

刑法第四百二十五條ノ十三同ノ四百二十七條ノ埋葬ノ文字

中ニ火葬ノ事モ包含セシヤ地方違警罪編制ノ都合アリ急キ御明

示ヲ仰シ

指令刑法第四百二十五條ノ第十三並ニ同第四百二十七條ノ第

十項ハ火葬モ含有スル儀ハ心得ヘシ

又ハ販賣シタル者トアルハ俚俗鼠花火線香花火ト云フ如キモノ迄含有セル儀ニ有之候哉

指令家屋内ニ於テ玩ヒ危害ナキ者ノ如キハ烟火ノ限ニアラス

○新潟縣 十五年五月十七日請訓 全年六月十日付 第一條茲ニ家屋牆壁ノ崩壞セントスルモノアリテ行人ニ傷害ヲ加フルノ危險アルモ慮リ警察署ヨリ屢々修繕方ヲ命スルモ之ニテ肯セサル時ハ刑法第四百二十五條第六項ノ明文ニ據リ處分スヘキハ勿論ノ處其處分後尙ホ修理ヲ加ヘス却テ該事件ハ此處分ナシテ落着セシモノ、如ク恬乎トシテ補理セサル時最後ノ處分如何トモ爲ス能ハサルヲ以テ不問ニ措ク時ハ益々破壞シ彌危險ナルハ論ヲ俟タサルナリ如斯如何處置シ可然哉 第二條私有地外ニ濫用ニ家屋牆壁ヲ設ケタル者ハ刑法第四百廿七條第十三項ニ據リ處分スヘキハ勿論該家屋牆壁ハ速ニ取崩サシメサルヲ得ス然レモ尙ホ前條ノ如ク恬乎トシテ居住シ更ニ取除クコトヲ肯セサル時ハ公方ヲ以テ取毀テ該費用ハ本犯ヨリ取立テ可然哉 指令伺々趣兩條共相當ノ猶豫ヲ與ヘ修理若クハ取崩ヲナサシ

十四年九月十五日

大政官達

陸海軍次人東京府下ニ於テ違式註違以罪ヲ犯シタル者ハ憲兵條例第八條ニ據リ憲兵ニ於テ處分シ其追徴シタル科料ハ憲兵隊長ヨリ其省ヘ交付セシメ候條此旨相達候事

明治十四年十二月九日

第六十四号布告

密賣淫ノ儀ハ刑法第

メ其督促ヲ受ケテ仍ホ肯セサル者ハ公方ヲ以テ相當ノ處分ヲナスコトヲ得

○山口縣 十五年六月十九日伺。全年八月十四日付

第一條刑法第四百二十五條第一項第二項ニ規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂スヘキ物品ヲ運搬シ將ク破裂スヘキ物品又ハ自ラ火ヲ發スヘキ物品ヲ貯藏シ云々ト有之處火藥運搬規則火藥庫圍線規則石油取締規則等ハ現ニ制定公布相成リシモ石油取締規則ハ此罪目ニ合著セサル者トシ其他氣液物品運搬及貯藏ノ取締ニ關スル規則トハ將來制定セラレ規則ト見做シ可然歟又火藥運搬規則ハ官民一般適用スル規則ト相心得可然哉 指令第一條前段伺ノ趣ハ破裂物品等ノ運搬貯藏ニ關シ將來制定セラレ規則等ハ勿論從來頒布相成リタル規則ト雖モ火藥運搬規則等ハ總テ刑法第四百二十五條第一項第二項ニ合著スル儀ト心得ヘシ但石油取締規則ハ刑法第四百二十五條第一項第二項中ニ包含セサルモノトス後段ハ伺ノ通

四百三十五條第十項ニ明文有之候得共當分ノ内其取締懲罰ハ從前ノ通東京ハ警視廳其他ハ地方官ヘ委任ス

○警視總監 十五年二月六日伺。全年三月十八日付
第二條刑法第四百二十六條第三項第四百二十七條第十二項及第
四百二十八條第一項第二項第四項第五項第九項犯罪ニ係ル所得
ノ金銭ハ并ニ沒收スヘキヤ
但第四百廿六條第三項第四百廿八條第四項第九項ハ其物品
又ハ品具共本文同様沒收スヘキヤ
指令第二條沒收スルノ限ニ在ラス
ホアソナード氏へ問合
問 伺第二條ノ通陳述ス
答 金銭ハ容解物ナリ一度犯人ノ手ニ入りタルキハ之ヲ沒收ス
ルヲ得ス若シ掛賣ニテ未タ金銭ヲ得サルキハ此限ニ在ラス
○三重縣 十五年二月七日伺。同月廿日付
刑法第四百二十六條第五項ニ人ノ通行スヘキ場所ニアル危險ノ
井溝其他凹所ニ蓋又ハ防圍ヲ爲サ、ル者トアルハ地主又ハ管守
者等之カ蓋又ハ防圍ヲ爲スヘキノ責任アルモノヲ以テ適用スル
ノ儀ナルヘシ然ル處其人ノ通行フヘキ場所ノ内道路橋梁修繕ノ
如キハ地方稅協議費等其支出ヲ異ニシ其地方稅ニ屬スル修繕ハ

第四百二十六條

左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處シ
一人家ノ近傍又ハ山林田野ニ於テ濫リ
ニ火ヲ焚ク者
ニ水火其他ノ變ニ際シ官吏ヨリ防禦スヘキノ求メテ受ケ傍觀シテ之ヲ肯セサル者

縣ニ於テ負擔スルモ其蓋又ハ防圍等一時危險ヲ防ク假令ノミナ
戸長ニ取扱ハサシメントス其協議費ニ屬スルモノハ其町村理事
者タル戸長ニ於テ負擔スヘキハ勿論地方税ニ屬スル分ト雖モ都
テ道路橋梁破損ヨリ危險ナル場所ハ該地戸長ニ於テ蓋又ハ防圍
ヲ爲スヘキヲ爲サハル時ハ戸長ヲ以テ看守者トナシ直チニ違警
罪ニ據リ處分セラルヘキ哉又ハ戸長職務上怠慢ノ責メニ屬スル
ヲ以テ官吏懲戒例ニヨリ處分スヘキヤ

指令伺ノ趣刑法第四百二十六條第五ノ正條ハ蓋又ハ防圍ヲ爲
スヘキ責任アル者ニ適用ス故ニ戸長若クハ其令ヲ受ケ責任ア
ル者ハ亦該條ニ依テ處斷ス

(理由) 刑法第四百廿六條第五ノ正條ハ管守者蓋又ハ防圍ヲ
爲スヘキ責任アル者ニ適用スヘキモノナルハ論ヲ俟タスト
雖モ實際ニ在テハ戸長自ラ手ヲ下シテ是等ノ事ヲ爲スヘキ
モノニアラスシテ其命ヲ受ケ是等ノ處置ヲ爲スヘキ責任ヲ
有スルモノアルヘシ此場合ニ於テ尙ホ戸長ヲ罰スルノ理由
ヲ存セサルナリ

○滋賀縣 十五年二月八日伺。同年三月廿二日付

- 三 不熱ノ菓物又ハ腐敗シタル飲食物ヲ販賣シタル者
- 四 健康ヲ保護スル爲メ設ケタル規則又ハ傳染病豫防規則ニ違背シタル者
- 五 人ノ通行スヘキ場所ニアル危險ノ井溝其他凹所ニ蓋又ハ防圍ヲ爲サハル者
- 六 路上ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ嘍シ又ハ

傳染病豫防規則ニ違背シ入航ノ船舶ヨリ上陸シ又ハ物品ヲ陸地ニ運搬シタル者及ビ船長此罪ヲ犯シ又ハ人ノ犯スルヲ知テ制セサル時若クハ流行地方ヨリ他所ニ出テタルモノハ如キハ刑法第二百四十六條乃至第二百四十八條ニ照シ區處スルハ勿論ナリト雖モ此他一般人民若クハ醫師衛生委員又ハ官吏其管掌ノ事務ニ於テ傳染病豫防規則ヲ犯シタル時ハ明治十三年第三十四号公布第二十二條第二十三條、二十四條ニ罰例ノリト雖モ亦刑法第四百二十六條第四項ニ傳染病豫防規則ニ違背シタル者ト明記シ即正條アルヲ以テ如斯ハ明治十四年第七十二号公布第六條ニ法律規則中罰例アリト雖モ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依テ處斷ストアルニ依リ違警罪ノ正條ニ照シ處分シ可然哉

指令伺ノ通

(理由) 官吏其管掌ノ事務上規則ニ違背スル者ハ其道德社會ヲ害スルノ通常人ノ比ニアラサルハ論ヲ俟タス故ニ其刑ヲ重クスルノ至當ナルニ似タリト雖モ刑法第四百二十六條第四項ニ傳染病豫防規則ニ違背シタル者トアリ況ク其規則ニ違背シタル者ヲ指シタル者ナルヲ以テ官吏カ管掌ノ事務ヲ

- 驚逸セシメタル者
- 七 發狂人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊セシメタル者
- 八 狂犬猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ路上ニ放ケタル者
- 九 變死人ノ檢視ヲ受ケスシテ埋葬シタル者
- 十 墓碑及路上ノ神佛ヲ毀損シ又ハ汚瀆シタル者
- 十一 神祠佛堂其他公

行フ場合モ亦之ヲ包含スルモノト解セサル可カラス果シテ然レハ十四年第七十二号布告第六條ニ依リ刑法ニ依リ處分スルヲ當然ナリ

○新潟縣 十五年六月廿日伺。全月廿九日付

明治九年内務省甲第十六号ヲ以テ天然痘豫防規則布達相成居候處右ハ衛生上樞要ノ布達ニシテ之ヲ履行スヘキハ勿論ニ付若シ該布達ニ違背スル者有之節ハ刑法第四百二十六條第四項ニ據リ處分スヘキヤ又ハ該布達中第八條ニ罰文アルモ新法實施ノ上ハ無効ノモノナレハ管豫防法ヲ履行セシムル迄ニ止マリ違犯者アルモ處斷スルノ限ニ無之哉

指令前段伺ノ通

○秋田縣 十五年七月十日伺。全年八月四日付

本縣限リ布達セシ健康保護ノ規則ニ違背シタル者該規則中ニ違警罪ヲ以テ罰セラルベシト明文掲載不致候テハ刑法第四百二十六條第四項ニ依リ罰セラルベシト得サレ儀ニ候哉果シテ然ラハ規則中罰セラルヘキモノト否トノ條項アル者ハ之ヲ區分シ明掲セサルヲ得ス

ノ建造物ヲ汚損シタル者

十二公然人ヲ罵詈嘲弄シタル者但訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

指令伺ノ趣健康保護ノ規則ニ違警罪ヲ以テ其違犯者ヲ處罰スヘキノ明文無之モ刑法第四百二十六條第四項ニ據リ罰スヘキ儀ト心得ヘシ

○鳥根縣 十五年六月廿三日伺。全年八月十四日内務省迄付
第一條刑法第四百二十六條第九項ニ變死人ノ檢視ヲ受ケスシテ埋藏シタル者ト有之右變死人ノ檢視ハ自ラ生命ヲ斷テタル者ナ
ル乎他人ノ爲メニ害セラレタルモノ乎ヲ證明シ其自殺ニ係ルハ親族ニ交付シテ埋藏セシメ被殺ニ係ルハ司法官ノ處分ニ移ス等
ノ一ヲ處置スル者ニシテ行政警察ノ事務ニ屬シ候儀ト相心得可
然哉

第二條果シテ前條伺ノ如クナルキハ死体ヲ解剖セサレハ自殺ト被殺トヲ確知スル能ハサル場合ト雖モ檢事其事件ニ干渉スルノ理ナキヲ以テ檢視ヲ行フ官吏ハ其長官タル縣令ノ指揮ヲ得テ死
体ヲ解剖スルヲ得ヘキ哉

○内務省立案

第一條被殺ニ係ルハ司法警察ニ屬スル儀ト心得ヘシ
第二條解剖ヲ要スル場合ハ十年第廿二号公布ニ據ルヘシ

司法省ヨリ同省へ回答

島根縣伺變死人檢視ノ儀ニ付御指令案ヲ付シ御照會ノ趣了承
伺第第一條ノ件ハ自殺ニ係ル者ハ之ヲ埋葬セシメ被殺ニ係ル
者ハ司法官ニ移スノ處置トアルヲ以テ之ヲ司法官ニ移ス迄ノ
手續キハ伺ノ通行政警察ノ事務ニ屬シ候儀ト考量第二條ハ被
殺ノ疑ヲ免カレサル者ニ付司法官ノ處分ニ屬スル者ナルニヨ
リ御省御指令案ニテ相當ト考量候

○新潟縣 十五年九月十五日伺。全年全月十九日付

第一條玆ニ甲者其兒ノ溺死セシヲ乙醫ニ其情ヲ告ケ病死証書ヲ
偽造セシメ其証書ヲ以テ送葬承認狀ヲ受ケ埋葬シタル者アリ右
ハ檢視ヲ受ケルノ手數ヲ省ク爲メ乙醫ヲシテ偽造セシメタル者
ナレハ甲者ハ刑法第四百三十六條第九項ニ據リ處分スヘキハ勿
論乙者ハ偽造ノ目的タル檢視ヲ受ケサルノ用具トナシタルモノ
ナレハ私書ヲ偽造スルノ罪トシテ刑法第二百十條第二項ニ依ル
ヘキモノニ可有之哉同條第一項ニ包含致シ居ルヘキ者ニ候哉
指令伺ノ趣甲乙共刑法第三百十條及三項及七第四百二十六條
第九項ノ數罪俱發ヲ以テ論ス可シ但乙ハ第四百二十六條第九

取項ノ從犯タル場合アルベシ

○新潟縣 十四年十二月一日伺。全年全月十九日付

取項ノ從犯タル場合アルベシ
○新潟縣 十四年十二月一日伺。全年全月十九日付
同省ヨリ同省へ回答
島根縣伺變死人檢視ノ儀ニ付御指令案ヲ付シ御照會ノ趣了承
伺第第一條ノ件ハ自殺ニ係ル者ハ之ヲ埋葬セシメ被殺ニ係ル
者ハ司法官ニ移スノ處置トアルヲ以テ之ヲ司法官ニ移ス迄ノ
手續キハ伺ノ通行政警察ノ事務ニ屬シ候儀ト考量第二條ハ被
殺ノ疑ヲ免カレサル者ニ付司法官ノ處分ニ屬スル者ナルニヨ
リ御省御指令案ニテ相當ト考量候
○新潟縣 十五年九月十五日伺。全年全月十九日付
第一條玆ニ甲者其兒ノ溺死セシヲ乙醫ニ其情ヲ告ケ病死証書ヲ
偽造セシメ其証書ヲ以テ送葬承認狀ヲ受ケ埋葬シタル者アリ右
ハ檢視ヲ受ケルノ手數ヲ省ク爲メ乙醫ヲシテ偽造セシメタル者
ナレハ甲者ハ刑法第四百三十六條第九項ニ據リ處分スヘキハ勿
論乙者ハ偽造ノ目的タル檢視ヲ受ケサルノ用具トナシタルモノ
ナレハ私書ヲ偽造スルノ罪トシテ刑法第二百十條第二項ニ依ル
ヘキモノニ可有之哉同條第一項ニ包含致シ居ルヘキ者ニ候哉
指令伺ノ趣甲乙共刑法第三百十條及三項及七第四百二十六條
第九項ノ數罪俱發ヲ以テ論ス可シ但乙ハ第四百二十六條第九

違警罪

○熊本縣警部 十四年六月 日質問。全月廿八日回答

刑法第四百三十七條第八項ノ規則ハ地方長官ニ於テ直ニ規則ヲ設ケ管内ニ布令シ置キ可然哉

回答御見込ノ通ニテ可然但此儀ハ行政上ノ下ニ付一般ノ成規モ可有之存候

○神奈川縣 十四年十月五日伺。全月廿一日付

第二條刑法第四百二十七條第五條第七項ニ瓦礫又ハ汚穢物ヲ道路家屋園圃ニ投擲シタル者ト有之然ルニ溝渠下水或ハ堀川明地等へ塵芥又ハ瓦礫ヲ投棄スルモノ、如キハ該項中ニ含蓄セサルモノト心得可然哉

第三條刑ノ第四白二十七條第十三項ニ私有地へ濫リニ家屋墻壁ヲ設クル云々ト有之然ル處爰ニ家屋修繕ノ爲メ私有地外へ足代板圍等ヲ濫リニ取設クルモノアリ是等ノ所爲ハ該十三項中ニ含蓄セサルモノト心得可然哉

指令伺ノ通

○千葉縣 十四年十二月一日伺。全月廿二日付

刑法第四百二十七條第八項ニ警察規則ニ違背シテ工商ノ業ヲ爲

第四百二十七條

左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十錢以下ノ科料ニ處ス
一 濫リニ車馬ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
二 制止ヲ肯セスシテ人ノ群集シタル場所ニ車馬ヲ牽キタル者

シタルモノト有之右工商ニハ劇場觀セ物馬車人力車土方其他見料賃金等ヲ以テ營業ヲ爲スモノモ包含致居候儀ト相心得可然哉

指令劇場觀セ物馬車人力車及ヒ貸本屋ノ類ニシテ見料ヲ取り營業ヲ爲ス者ハ刑法第四百二十七條第八項ニ含蓄スト雖モ土方ハ含蓄セス但賃金トハ如何ナル營業ナルヤ更ニ詳細伺出ヘン

○和歌山縣 十四年十二月十九日伺。全月廿八日付

刑法第四百二十七條第八項ニ警察規則云々トアルハ警視廳ヨリ其管下ニ布達シタル規則ハ勿論其他地方長官名ヲ以テ其管下ニ布達シタルモノ、内其實警察上取締ノ爲メ設ケタルモノナレハ警察規則ニ明文ヲ掲ケスト雖モ同儀ノ儀ト相心得可然哉

指令伺ノ通

○茨城縣 十五年三月十七日伺。全月三十一日付

刑法第四百二十七條第八項ニ警察ノ規則ニ違背シテ工商ノ業ヲ爲シタル者ト有之候處旅人宿料理店藝娼妓貸坐敷引手茶屋寄席雇人受宿見セ物人力車馬車營業者ノ如キモ勿論商業云々ニ含蓄セル儀ト相心得可然哉

指令伺ノ趣旅人宿料理店寄セ席雇人受宿見セ物馬車并ニ人力

車（必スシモ自ラ挽クニアラス）營業者等ハ刑法第四百二十七
 條第八項ノ商業中ニ含蓄シ藝娼妓人力車挽稼キ馭者其他藝人
 勞力者ハ該業ノ工商中ニ含蓄セズ但娼妓貸坐敷等ノ取締ハ從
 前ノ通地方官ニ御委任ノ儀ニ付地方官規定ニ從マセキ者トス
 刑罰①警井始審廳檢事（十五年十月九日問合）ニ依リて
 刑法第四百二十七條十三項私有地外トハ官有地ヲ指スカ又他ノ
 所有地モ指スカ
 回答御問合ノ件私有地外トハ官有公有ヲ問ハズ自分所有地ノ
 外ヲ謂フ

八警察ノ規則ニ違背
 シテ工商ノ業ヲ爲
 シタル者
 九醫師穩婆事故ナク
 シテ急病人ノ招待
 ニ應セサル者
 十死亡ヲ申告テ爲サ
 スシテ埋葬シタル
 者
 十一流言浮説ヲ爲シ
 テ人ヲ誑惑シタル
 者
 十二妄ニ吉凶禍福ヲ
 説キ又ハ祈禱符咒

Blank area for text on the left page.

等ヲ爲シ人ヲ惑ハ
 シテ利ヲ圖ル者
 十三私有地外ニ濫リ
 ニ家屋牆壁ヲ設ケ
 又ハ軒楹ヲ出シタ
 ル者
 十四官許ヲ得スシテ
 路傍又ハ河岸ニ床
 店等ヲ開キタル者
 十五路上ノ植木市街
 ノ常燈及ヒ廁場等
 ヲ毀損シタル者
 十六道路橋梁其他ノ
 場所ニ榜示シタル

通行禁止及ヒ指道
標ノ類ヲ毀棄汚損
シタル者

又ハ...

第四百二十八條

左ノ諸件ヲ犯シタル
者ハ一日ノ拘留ニ處
シ又ハ十錢以上一圓
以下ノ科料ニ處ス

一官署ヨリ價額ヲ定
メタル物品ヲ定價
以上ニ販賣シタル
者

二渡船橋梁其他ノ場
所ニ於テ定價以上
ノ通行錢ヲ取り又
ハ故ナク通行ヲ妨
ガタル者

○大坂府 十五年二月廿八日伺。全三月十五日付

刑法第四百廿八條第四項ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲シ
タルモノトアリ右路上トハ街衢道路ニ限ル様相見ヘ候得共該法
理ノ精神ヲ推測スルニ風俗ヲ害スルノ点ヨリ設ケテ左レタルモノ
ト思料スルヲ以テ店頭又ハ社寺境内等ニ一時圍ヲ設ケ右ノ所業
ヲ爲シ公然衆人ノ目ニ觸ルハ場所ハ總テ路上同様ニ見做シ可然
哉

指令伺之通

○兵庫縣警部 十五年二月 日伺。全年三月十二日付

刑法第四百廿八條第四項ハ如何ナル商業ヲ指スモノナルヤ
指令勝敗ニ因テ損得アラシムル類ノ商業ヲ指スト雖モ實際ニ
就クニ非サレハ一々明示シ難シ

○兵庫縣警部 十五年 月 日伺。全年五月十二日回答

刑法第四百二十八條第四項ニ路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲
シタルモノトアリ然レニ近來玉轉ロガシ又ハ相撲取落シ杯ト稱
ス菓子類ヲ賣ルモノアリ其法ヲ見ルニ左ノ如シ

金銀紅白黒等ノ數線ヲ畫シ其板面ニ玉ヲ轉スシ料一次一錢或ハ三錢トシ其玉ノ止マル所金線ナレハ何銀線ナレハ何紅白黒線ナレハ何々ト與フル物品ニ差異アリ

乙ハ鐵道及電信ノ柱線ニ模倣シタルモノヲ造リ其一端ニ停車場ニカタトリ表ニ圓形ノ回轉スル時計標ヲ物ヲ拵ヘ是レモ數線ヲ畫シ其欄内ニ各停車場ノ名稱ヲ記シ尙其傍ニ鞭ヲ持チテ圓形ノ方ヲ指シ起立シタル人形アリ別ニ又停車場ノ名稱ヲ記シタル切符十數枚ヲ數人ニ賣リ此價モ亦一枚ニ付概チ一錢或ハ二錢トシ而シテ一端ノ電線上ニ小サキ玉ヲ投スレハ其玉次第ニ線上ヲ回轉シ各停車場ノ内ヲ經テ一端ノ停車場内ニ墜ツ其玉落ツルノ機ニ彼ノ圓形ノモノ回轉ヲ始メ數回ニシテ止ム其止ル時彼人形カ指シタル所ニ當ル停車場ノ名稱ヲ各自ノ切符ニ合セ其適合シタルモノハ價五六錢ノ物ヲ與ヘ其他ノ者ハ僅カ一二厘ノ品ヲ與ルノ法ナリ

相撲取落シトハ高サ三尺餘リニシテ横ニ細長キ臺ヲ設ケ其上ニ角士ヲ形ニ拵ヘタル人形數個ヲ陳列シ是レニ四尺計リモ距リテ毬ヲ投ケ其人形ヲ臺上ヨリ落スノ法ニナシタルモノナリ是レモ

三渡船橋梁其他通行錢ヲ拂フハ其場所ニ於テ其定價ヲ出サスシテ通行シタル者

四路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲シタル者

五官許ヲ得スシテ劇場其他觀物場ヲ開キ及ヒ其規則ニ違背シタル者

六溝渠下水ヲ毀損シ又ハ官署ノ督促ヲ

凡毬十個ヲ投グルノ料一錢ニシテ其向面ニ陳列シタル人形ノ的ニ毬ヲ投ケ悉皆人形ヲ落シタル者ハ何内幾干ヲ落シタルモノハ何ト其落シタル數ニ隨テ得ルノ物品ニ多寡アリ

以上ノ商業ヲ路上ニ於テ爲シタルモノハ該條ノ問フ處ニ有之候哉

前項果シテ問フヘキモノトセハ社寺院ノ境内ニ於テ爲スモノモ同一ノ儀ニ候哉

前兩條問フ所トスルモ戸内ニ於テ爲スモノハ假令往來公衆ノ目ニ觸ル、場所ト雖モ該條ノ問フ所ニアラサルハ勿論ノ儀ニ候哉

回答刑法四百二十八條第四項ノ儀ニ付御質問ノ趣前三件ハ御見込ノ通ニテ可然ト雖モ實際弊害ナキニ於テハ強テ摘發スルニ及ハサルヘク考量候後二件ハ社寺院ノ境内ト雖モ參詣人ヲ許ス地及ヒ路傍衆人ノ認得ル場所ハ路上同一ナルヘク候得共戸内ノ如キハ一概ニ路上ト同視シ難キニ付實際ニ就テ定ムヘキ者トス

○弘前始審廳檢事 (十五年七月十八日請訓) 全年八月十六日内訓

第十條刑法第四百二十八條第八項ノ所爲ヲ私有地ニテナス時ハ

受ケテ溝渠下水ヲ浚ハサル者

七制止ヲ肯セスシテ路傍ニ食物其他ノ商品ヲ羅列シタル者

八官許ヲ得スシテ獸類ヲ官有地ニ放ケ又ハ牧畜シタル者

九身体ニ刺文ヲナシ及ヒ之ヲ業トスル者

十他人ノ繫キタル牛馬其他ノ獸類ヲ解

何條ニ依ルキ儀ニ候哉

指令第十條罪ノ同フヘキナシ但他人ノ私有地ニ係ル時ハ唯ニ要償少責アルノミ

放シタル者

十一他人ノ繫キタル

舟筏ヲ解放シタル

者

何條ニ依ルキ儀ニ候哉
指令第十條罪ノ同フヘキナシ但他人ノ私有地ニ係ル時ハ唯ニ要償少責アルノミ
○高田始審廳檢事 十五年二月廿五日伺。全三月廿日内訓
法廳門前ニ設ケル掲示文ヲ故意ニ拭ヒ消シ候者處分ノ儀ハ法章
明文無之候得共刑法第四百二十九條第十五項中ニ包蓄セルモノ
庫相心得可然哉
内訓見込ノ通
○警察使質問 十五年三月廿八日回答
鐵道局出入口即チ往來ト該局邸地下ノ境界ヘ本局ノ許可ヲ得タ
ル者ノ外馬車人力車夫人ル可カラサルノ制札アリ然ルニ右場所
ニ制止ヲ肯セス猥リニ出入スル者アリ如此刑法第四百二十九條
第九項ニ依ルヘキヤ將タ鐵道罰則ニ明文アレバ該則ニ依ルヘキ
モノナルヤ
回答刑法部内ノ違警罪ト鐵道罰則ト双方明文アルニ付御質問
ノ趣致承知候右ハ鐵道罰則中明文アリト雖モ刑法ニ正條アル
ニ付客年第七十二号布告第六條ニ從ヒ刑法ニヨリ處斷スヘキ
儀ト考量候
○滋賀縣 十五年三月八日伺。全月廿八日付
第一條制止ヲ肯セスシテ人ノ群集シタル場所ニ牛ヲ牽キタル者

放シタル者
十一他人ノ繫キタル
舟筏ヲ解放シタル
者
者ハ五錢以上五十錢
以下ノ科料ニ處ス
一橋梁又ハ堤防ノ害
ト爲ルヘキ場所ニ
舟筏ヲ繫キタル者
二牛馬諸車其他物件
ヲ道路ニ横タヘ又
ハ木石薪炭等ヲ堆
積シテ行人ノ妨害
ヲ爲シタル者
三車馬ヲ並ヘ牽テ行
人ノ妨害ヲ爲シタ

第四百二十九條

左ノ諸件ヲ犯シタル
者ハ五錢以上五十錢
以下ノ科料ニ處ス
一橋梁又ハ堤防ノ害
ト爲ルヘキ場所ニ
舟筏ヲ繫キタル者
二牛馬諸車其他物件
ヲ道路ニ横タヘ又
ハ木石薪炭等ヲ堆
積シテ行人ノ妨害
ヲ爲シタル者
三車馬ヲ並ヘ牽テ行
人ノ妨害ヲ爲シタ

アル時ハ刑法第四百二十七條第二項ニ準シ又牛ヲ並ヘ牽テ行人ノ妨害ヲ爲シタル者アル時ハ刑法第四百二十九條第三項ニ準據シ處分致シ可然ヤ

第二條水路ニ於テ筏又ハ材木ノ類ヲ並ヘ通船ノ妨害ヲ爲シタル者アル時ハ刑法第四百二十九條第四項ニ準據シ處分シ可然ヤ
第三條道路ニ沿フタル人家軒下ニ醉臥シタルモノアル時ハ刑法第四百二十九條第十二項ニ依リ處分致シ可然ヤ

指令牛ヲ並ヘ牽テ行人ノ妨害ヲ爲シタル者刑法第四百二十九條第八項ニ明文アリ道路ニ沿フタル人家軒下ニ醉臥シタル者ハ同之通制止ヲ肯セズ人ノ群集シタル場所ニ牛ヲ牽キタル者並ニ水路ニ筏又ハ材木ヲ並ヘ通船ノ妨害ヲ爲ス者ハ別ニ其規

則テ設ケサレハ罰スルコトヲ得ス
○栃木縣、十五年十一月十四日伺。全年十一月十六日付電報車馬ヲ乘入ルルヲ禁シタル縣社ノ榜示ヲ犯シ乘入リタル者ハ刑法ニ明條見出シ處分ニ限リテ裁量ナシ
指合本月十四日付電報伺迄趣ハ刑法第四百二十九條第九項ニ依リ處分シ可然ヤ

- ル者
- 四水路ニ於テ舟ヲ並ヘ通船ノ妨害ヲ爲シタル者
- 五氷雪塵芥等ヲ路上ニ投棄タル者
- 六官署ノ督促ヲ受ケテ道路ノ掃除ヲ爲サズル者
- 七制止ヲ肯セズシテ路上ニ遊戯ヲ爲シ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 八牛馬ヲ牽キ又ハ繫

○新潟縣 十五年六月廿一日請訓。全年七月四日内訓

管内或地方ニ於テ自由黨改進黨ト唱フル演說者流ニシテ一ツ俗歌ヲ作爲シ謠フ者アリ云ク
(明治政府又ハ厭制府) ナ(ドンガラソン) 倒ス
一ニ(ドンガラソン) 何ノ手ニ倒リス(ドンガラソン) 自由ノ鎗ニテ(ドンガラソン) 突キ殺ス(ドンガラソン) 之ヲ玩味スルニ自由ノ論鋒ヲ逞フスル政府ヲ顛覆爲サントノ語氣ヲ顯ハシ畢竟治安ニ妨害アル者ト看認メサルヲ得ヌ殊ニ俗歌ノ如キハ人民ノ解スルニ容易ナル彼ノ詩ニ賦シ文ニ成ス等ノ比ニアラサルヘシ果シテ解スルニ容易ナレハ思想ノ感動ヲ起ス亦容易ナルヘシ依テ之ヲ處分セントスルニ適用スヘキ條項見出ス能ハス又タ其作爲シタル者ト謠フ者トハ自然處罰異ナルヘキカノ疑義ヲ抱キ候

内訓請訓ノ趣法律上明文ナキヲ以テ不問ニ措クヘシ但道路ニ於テ放歌シタル場合ニ於テハ之ヲ制止シ猶ホ肯セサルハ刑法第四百二十九條第十一ニ依テ處分スヘキ儀ト心得ヘシ
○警視總監、十五年九月廿日伺。全年全月廿七日付
第三條刑法第四百二十九條第九項ニ出入ヲ禁止シタル場所云々トアリ右禁止ハ一般官署ヨリ爲シタル者ヲ云フヤ又ハ單ニ警察

- クヲナ忽カセシテテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 九出入ヲ禁止シタル場所ニ濫ニ出入シタル者
- 十通行禁止ノ榜示ヲ犯シテ通行シタル者
- 十一道路ニ於テ放歌高聲ヲ發シテ制止ヲ肯セサル者
- 十二酩酊シテ路上ニ喧噪シ又ハ醉臥シ

權ヲ以テ發布シタル者ニ限ル儀ニ候哉

前指令第二條一般官署ヨリ爲シタル者ヲ云フ乃チ警察權ノ如キ

ハ一般官署ノ中ニ包含スルモノナリ

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

多ル者

十三路上ノ常燈ヲ消

シタル者

十四人家ノ牆壁ニ貼

紙及ビ樂書シタル

者

十五邸宅ノ番号標札

招牌又ハ貸家賣家

ノ貼紙其他報告ノ

榜標等ヲ毀損シタ

ル者

十六他人ノ田野園圃

ニ於テ茶菓ヲ採食

シ又ハ花卉ヲ採折

シタル者

十七公園ノ規則ヲ犯

シタル者

十八通路ナキ他人ノ

田圃ヲ通行シ又ハ

牛馬ヲ牽キ入レタ

ル者

○島根縣 十四年十月十四日伺。全月廿七日付

地方ニテ便宜定ル所ノ違警罪ノ儀ニ付本年九月九日付ヲ以テ相伺同月廿八日御指令ノ趣モ有之候處尙ホ不丁解ノ廉有之左ニ相伺候

第一條地方ニ於テ罪目ヲ制定布達スル時ハ其罪目毎トニ刑名ヲ定メ布達スヘキ筋ニ候ヤ又ハ地方ニ於テハ罪目ノミチ布達スレハ足レリトシ犯者アレハ裁判官ニ於テ刑法第二十八條第二十九條ノ範圍内ニ於テ處分相成候義ト相心得可然哉

第二條前條前半項ノ如クナリトセハ其刑名ハ刑法第四百二十五條乃至四百二十九條ノ權衡ニ照準拘留ノ長短科料ノ多寡ヲ定ムヘキヤ又ハ刑法第二十八條第二十九條ノ範圍内ニ出サレ限リハ右第四百二十五條乃至第四百二十九條ノ權衡ニ照準セサルモ(五)以上七日以下ノ拘留又ハ一圓五十錢以下ノ罰金(五)以上一圓八十錢以下ノ科料ト爲スノ類)妨ケナキヤ

指令第一條地方ニ於テ違警罪目ヲ布達スル時ハ其罪目毎ニ刑名ヲ定ムルモノトス但刑法第四百二十五條以下ノ例ニ依ルモ不苦儀ト心得ヘシ

第二條拘留ノ長短科料ノ多寡ヲ定ムルハ刑法第四百二十五條

第四百三十條

前數條ニ記載スルノ外各地方ノ便宜ニ依リ定ムル所ノ違警罪ヲ犯シタル者ハ其罰則ニ從テ處斷ス

乃至第四百二十九條ノ權衡ニ照準スル儀ト心得ヘシ

○茨城縣 十四年十一月一日伺。全月十二日付

第二條刑法第四百三十條ノ明文ニ循ヒ地方便宜ニ設ケタル違警罪ハ他管人民ト雖モ當管内ニ於テ犯シタルハ其不知夫論セズ均該ク承認セシモ之ト看做シ處斷スル儀相心得可然哉

○群馬縣 十四年十一月廿五日伺電信。全月三十日付

財物ヲ賭ケ博戯ヲオシ及ヒ房屋ヲ賃シタル證憑後ニ發露シタル者ノ一項ヲ加テ度差支ホキヤ 指令賭博罪ノ儀ニ付伺ノ趣ハ違警罪ニ加フルヲ得サル儀ト心得ヘシ

○兵庫縣 十四年十月八日伺。全年十二月廿二日付

第十六條刑法第四百三十條ニ掲グル所ノ各地方ノ便宜ニヨリ定ムル違警罪ハ一縣内ト雖モ土風民俗同シカラサルヲ以テ必シモ一定ヲ要セサル儀ニ候ヤ果シテ然ラハ一ノ違警罪裁判所管内ト雖モ市街村落ヲ異ニスル場合ホ必シモ一定ヲ要セサル儀ニ有之候哉

指令伺之通

○滋賀縣 十五年一月十八日伺。全年三月十五日付。第十三條府縣限り定ムル違警罪ニシテ甲縣乙縣ト同一ノ刑名アリ而シテ甲縣ニ於テ其科料一圓以上一圓九十五錢以下乙縣ニ於テハ五錢以上五十錢以下トスル其罰額ニ異ナル罪ヲ甲乙兩縣下ニ繼續シテ犯シ來ル者ヲ乙縣下ニテ巡査之ヲ見認メ其地警察署ニ告發シタル時ハ其告發ヲ受ケタル警察署ニ於テハ甲乙兩縣中何レノ違警罪ニ依リ處分セハキヤハ違警罪ニ依リ處分セハキヤトシテ指令甲縣ニ於テハ甲縣ニ於テ處分シ乙縣ニ於テハ乙縣ニ於テ處分シ各自ニ科スル儀ト心得ルシテ...

○和歌山縣 十五年二月七日伺。全年三月十八日付。違警罪裁判ハ警察署ニ於テ裁判シ分署ニ於テハ實地ノ便否ニ據リ裁判ヲ爲スモ又ハ爲サズルモ適宜取計不苦時將分署ニ於テ便宜裁判ヲ爲スモ刑法第九十三條再犯ヲ以テ論スヘキ裁判管轄ハ警察署區畫ニヨリ可然哉... 指令前段伺ヲ通後段分署ニ於テ裁判ヲ爲ス時其管轄内ノ再犯ヲ刑法第九十三條ニ依リモシテ...

○石川縣 十五年三月十日伺。全月十八日付。警察止取締諸規則中ハ刑法中明文明有之違警罪目ヲ其儘編輯候モ差支無之哉果シテ差支無之トセハ該取締規則ニ違犯ノ者處分方ハ違警罪目ニ明文アル者ハ該罪目ニ從ヒ其明文ナキモノハ警察規則ニ違背シ工商ノ業ヲ爲シ遵ル者ニ準擬處斷スル儀ト相心得可然哉... 指令伺之通

但工商ノ業ニ非サル者ヲ工商ノ業ト爲スヲ得ス... ○警視廳 十五年六月二日質問。全月九日回答。暗夜路傍便所ニ於テ周章放尿スルニ際シ先入者アルヲ覺ラス其背裾ヲ濺瀆スル等ノ過失者ハ固ヨリ不問ニ付スヘキ儀ト存候ヘ共若シ有心之ヲ故ラニ犯シ又ハ其他ノ汚穢物ヲ抛棄シテ人ヲ侮辱スル者ノ如キハ刑法并他ノ法律規則ニ於テモ之ニ適用スヘキ正文等不相見如斯ハ如何心得可然哉... 回答經第四号ヲ以御質問ノ趣第一項ハ刑法ノ問ラヘキナシ但刑法第四百三十條ニヨリ更ニ罰則ヲ設クルハ格別ナリトス右ハ當局ノ意見ニ有之候條此段回答候也

○京都府 十五年八月二日伺。全年全月廿五日付
 當府違警罪目中、搦載セシ人方車夫取扱規則ニ違背ノ者アリ主
 任官之ヲ處分スルニ併セテ營業中得タル所ノ金圓ヲ沒収セリ然
 ルニ右金圓ノ性質ヲ刑法第四十三條第三項範圍内ノモノト難
 見認テ以テ該沒収金ハ更ニ之ヲ本人ニ返付スルキモノト思考候
 得共其裁判ノ確定セシモノ之レヲ貼斷スルノ類例モ無之取扱上
 疑義ヲ生シ候
 指令伺之概違警罪審判手續ノ儀ハ客年第四十四号布告ヲ以テ
 便宜取計ヲ許サレタスニ付其誤斷人ルニ失セシ者ノ如キハ改
 正以處分ヲ爲スルヲ得ルヲ以テ誤テ沒収シタル物品ハ直ニ本
 人ニ還付スヘシ
 ○兵庫縣 十五年七月廿二日伺。全年八月一日付
 戸長役場行政事務止ハ喚出ニ應セザル者之ヲ一條件違警罪目
 ニ加テ苦シカラバヤクニシテハ罰金ニシテ其罰金ノ額ハ
 指令伺之通ニシテハ罰金ノ額ハ罰金ノ額ニシテ其罰金ノ額ハ
 ○福岡縣 十五年十月十日伺。全月廿五日付
 國土及保安ニ關スル民有林ニシテ本年太政官第三号達ニ準據シ

伐木停止致置候山林ヲ所有者ニ於テ許可ヲ經テ擅テ伐採スル者
 ハ豫テ違警罪目ヲ掲分シ該被害木悉皆官沒致シ不苦哉
 指令違警罪目ニ加フルハ妨ケナシト雖モ伐木ハ沒収スルノ限
 ニアラヌ
 ○警視總監 十五年九月廿日伺。全年全月廿七日付
 第一條禁苑中宮内省ヨリ榜示セリ禁條 (禁苑拜觀中酒食不相成
 踏入簡敷事) 及靖國神社内陸海軍省ヨリ榜示セル禁條 (鳥魚ヲ捕
 其他敷項) 等ニ違フ者ノ如キハ他ニ正條無之ニ付常廳違警
 罪目第十六條 (各所ニ榜示セル禁) 以テ處分可致積ニ有之處其
 他官署ノ職權ヲ以テ榜示セル禁條 (公園禁條) ヲ犯ス者モ亦同
 線ノ儀ト相心得可然哉
 指令伺ノ通
 ○愛媛縣 十五年十月十日伺。全年十月廿八日付
 茲ニ他ノ村場ニ生立スル些少ノ稜或ハ苗代草ヲ刈採ル者アリ其
 所犯刑法第三百七十三條第三百七十三條中其他ノ產物ヲ竊取ス
 ルニ合著セシ者ニ似タリト雖モ抑モ該犯者ノ行爲ニ於ケル白晝
 公然山野ニ臨ミ刈採ル者ニシテ敢テ人目ヲ忍ラズ者ニアラス之ヲ

體言以シハ儲在ノ慣行ト云フモ不可ナキカ如シ濃之客年十二月迄ハ本縣限リテ違警罪ニ依リ之ヲ處分セシモ新法實施後ハ稍々該條ト重複スルヲ以テ刪除セリ然ルニ實際些少ノ秣或ハ苗代草ヲ刈採ル者ニ該條ヲ適用シ處分スルハ最モ苛酷ニ涉リ固シ儲在ノ土民ニ於テモ如斯輕罪ノミ處セラル、ナキモ不知然リト雖モ之レヲ警戒説諭ニ止ルキハ地方ノ取締不相立ニ付更ニ本縣ニ於テ相當ノ違警罪目ヲ制定シ之ヲ以テ處分候様致度

指令伺ノ趣違警罪條目ヲ設定スルモ苦シカラス

○根室縣 十五年十一月十七日伺。同年十二月八日付 第一條常管下ノ儀ハ專ラ海産ヲ以テ生計ヲ營ムニ依リ魚族等ノ繁殖ヲ圖ルハ緊要ノ事ニ付キ夫々漁業ノ制限ヲ定メ置候ニ付テハ若シ違犯スル者アレハ刑法第四百三十條ニ基キ地方ノ便宜定ムル所ノ違警罪ヲ以テ處罰相成候處元來違警罪ノ刑ハ輕キ者故其科罰ヲ廿ニ間々犯則者モ有之單ニ科料ニ處シタルノミニテハ到底充分ニ取締難相立音ニ他シ營業者取締クシメテテ殖産ニ害不尠候依テ自今該制限ヲ違背スル者有之ニ於テ該相當ノ科料ニ處シテ北捕犯ニ依リ得テ海産物ハ悉皆官沒相成可然哉

指令第一條伺ノ通

(理由) 違警罪犯ニ因テ得タル物件ハ必スシモ沒収スルヲ要セサル先例アリ本件ノ如キハ當然沒収スルヲ至當ト考量候

此の書は、我が國の古來の歴史を、
（即ち、漢書、後漢書、三國志、晉書、宋書、南齊書、梁書、陳書、魏書、北齊書、周書、隋書、南史、北史、舊唐書、新唐書、舊唐書、新唐書、宋史、元史、明史、清史）
の各書に、附録として、

○長崎縣（十四年十二月廿八日伺）電報内務省合議
第一條本則中記載アル處ノ獄司獄丁ハ押丁典獄ト相心得可然哉
指令昨年第六十七號布告刑法附則ノ件ハ第一條伺ノ通

刑法附則

第一章主刑執行

第一條 死刑ハ其執行ヲ爲ス裁判所ノ檢察官書記及ヒ獄司刑場ニ立會獄司ヨリ囚人ニ死刑ヲ執行ス可キコトヲ告示シタル後獄丁ヲシテ之ヲ決行セシム但其期限ハ午前十時前トス

第二條

死刑ヲ行フ時ハ刑場
ノ警戒ヲ嚴ニシ執行
ニ關スル者ノ外刑場
ニ入ルヲ許サス但
立會官吏ノ許可ヲ得
タル者ハ此限ニ在ラ
ス

第三條

死刑ノ執行ヲ畢リタ
ル時ハ書記其始末書
ヲ作り立會ヲ爲シタ
ル官吏ト共ニ署名捺
印シ之ヲ裁判所ノ檢
事局ニ納ム可シ

○平始審廳檢事

(十五年二月一日伺) 同年三月九日付

第五條刑法附則第四條元始祭以下ノ日ハ死刑ヲ行フヲ禁スト之レアリ右ハ全ク死刑ノ執行ヲ禁セラレタル迄ニテ他ノ刑ノ言渡ヲ行フニハ敢テ差支無之義ニ有之候哉若シ然ルキハ明治六年三月十二日本省第三十二號除刑罰拷問ノ日更定布達ハ自然廢止セラレタル義ニ有之候哉

指令第五條伺ノ通

○松江始審廳檢事 (十五年四月十三日伺) 同年五月十日付

第十四條刑法附則第四條ニ記載シタル中何レヲ大祀ト云ヒ何レヲ令節若クハ國祭ト云フカ
指令第十四條大祀トハ大嘗會ヲ云ヒ刑法附則第四條中令節トハ紀元節天長節國祭トハ元始祭神嘗祭新嘗祭等ヲ云フ

第四條

左ニ記載シタル日ハ死刑ヲ行フヲ禁ス
元始祭
孝明天皇祭
紀元節
春季皇靈祭
仁孝天皇祭
神武天皇祭
六月大祓
秋季皇靈祭
神宮神嘗祭
天長節
後桃園天皇祭

新嘗祭

光格天皇祭
十二月大祓

第五條

死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懐胎ト申スル者ハ醫師及ヒ穩婆ヲシテ之ヲ検査セシメ果シテ懐胎ナル時ハ檢察官ヨリ司法卿ニ上申シテ其執行ヲ停メ産後一百日ヲ經テ更ニ司法卿ノ命令ヲ受ケ決行スヘシ

第六條

死刑ノ遺骸ハ一定ノ場所ニ埋ム若シ親屬故舊請フ者アル時ハ獄司之ヲ許可シ下付スルヲ得

第七條
死刑ノ宣告ヲ受ケタ
ル者執行ニ至ルマテ
何時ニテモ獄司ノ許
可ヲ得テ其親屬故舊
ニ接見スルヲ得

○大坂控訴廳判事(十五年二月十六日請訓)

刑法附則第八條ニ死刑ヲ執行シタル時ハ云々ト有之又本年本省
丙第三號細達ニハ死刑ノ宣告アリタルハ重罪裁判所書記ニ於
テ云々公告案ヲ製シトアリ右ハ其宣告アリタル時公告案ヲ製ス
ト雖且之ヲ揭示シ及ヒ地方廳へ送達スルハ裁判確定則執行畢リ
タル時ノ取計ト相考候然レハ其以前重罪裁判所ヲ閉廳スル時ハ
該處分ハ執行ヲ爲ス裁判所書記局ニ於テ負擔ス可キ筋ト心得可
然哉

指令死刑ノ者公告ノ儀ニ付請訓ノ趣ハ意見ノ通

○岡崎始審廳判事(十五年八月五日請訓)

第一條舊律ニ於テハ終身懲役ニ新刑法ニ於テハ無期徒刑ニ該ル
可キ者之レアリ明治十四年中ノ着手ニ係ルヲ以テ十四年第八十
二號布告ニ依リ従前ノ規則ニ從ヒ處分スル場合其揭示榜告ハ刑
法附則ヲ參照シ揭示セサル者ト心得可然哉又ハ従前ノ手續ニ依
リ終身ト雖且尙揭示スヘキ者ナル哉
第二條其死刑ニ處スル者(十四年中ノ着手ニ係ル者)揭示ノ手續ハ本年本省
丙第三號御達ニ依ル可キ哉又ハ尙ホ明治七年本省第九號御達ニ

第八條

死刑ヲ執行シタル時
ハ犯人ノ屬籍氏名年
齡職業住所及ヒ其罪
狀刑名ヲ記載シテ左
ノ各所ニ公告ス可シ
刑ヲ宣告シタル裁
判所ノ門前
犯罪ノ地
犯人住居ノ地

基ク者ナルヤ

内訓第一條第二條其前段見込ノ通

十

○長崎縣(十四年十二月廿八日付) 電報内務省合議

第二條本則第九條以下徒流ノ囚ヲ集治監へ發遣セントスル時又ハ監視ニ付セラレタル者峻改ノ狀アルヲ以テ假ニ監視ヲ免サントセシ時又ハ假出獄ヲ許スベキモノアル時等ニ於テ獄司ヨリ内務卿へ上申云々又ハ警察官ヨリ其實情ヲ上申シ内務司法兩卿ノ命ヲ受ル如キノ手續ハ典獄又ハ係リ警部ヨリ直ニ上申スルノ順序ト相心得可然哉

指令第二條附則第九條ノ件ハ昨年十二月二十八日内閣書記官正誤ノ通其他ハ總テ伺ノ通

第九條

徒流ノ囚ヲ發遣スルハ裁判ヲ爲シタル地ノ獄司ヨリ内務卿ニ上申シ其命令ヲ待テ發船ノ地ニ護送ス可シ
十四年十二月廿八日
内閣書記官ヨリ正誤
第九條ノ(獄司)ハ(監獄管理長官)ノ誤其餘ノ條ハ(獄司)ハ(典獄)(獄丁)ハ(押丁)ノ誤

第十條

徒刑ノ囚ハ島地ニ於
テ便宜ニ從ヒ獄外ノ
役ニ服セシムルヲ
得

第十一條

流刑ノ囚幽閉中獄内
ニ於テ自ラ工業ヲ爲
サント請フ者ハ獄司
之ヲ許ス可シ

第十二條

流刑ノ囚幽閉ヲ免ス
可キ者アル時ハ獄司
ヨリ内務司法兩卿ニ
上申シ其許可ヲ受ク
可シ

第十三條

徒刑ノ囚假出獄ヲ許
サレタル者又ハ流刑
ノ囚幽閉ヲ免セラレ
タル者家属ヲ招キ同
居スルヲ請フ時ハ之
ヲ許スヲ得但其路
費ハ自ラ之ヲ辨ス可
シ

第十四條

流刑ノ囚幽閉ヲ免シ
地ヲ限り居住セシム
ル者ハ監獄近傍ノ地
ヲ限り獄司ノ監督ヲ
受ケシム若シ己ム
ヲ得サル事故アル時
ハ獄司ニ請フテ限外
ニ出ルヲ得

第十五條

流刑ノ囚幽閉ヲ免セ
ラレタル者再ヒ罪ヲ
犯シタル時ハ本刑期
限内ト雖モ島地ニ於
テ直チニ其刑ヲ執行
ス可シ

流刑ノ囚ハ其ノ執行
ノ地ニ於テ居住スル
ニ當リ其ノ地ノ官
署ニ於テ其ノ刑ヲ
執行スルニ當リ其
ノ地ノ官署ニ於テ

第十六條

懲役重禁錮ノ囚ハ便
宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ
服セシムルヲ得

凡ソ懲役ノ重禁錮ノ囚ハ
其ノ刑ノ執行ニ當リテハ
其ノ刑ノ執行ニ當リテハ
其ノ刑ノ執行ニ當リテハ
其ノ刑ノ執行ニ當リテハ

第十七條

禁獄輕禁錮ノ囚獄内
ニ於テ自ラ工業ヲ爲
サント請フ者ハ獄司
之ヲ許ス可シ

凡ソ禁獄輕禁錮ノ囚ハ
其ノ刑ノ執行ニ當リテハ
其ノ刑ノ執行ニ當リテハ
其ノ刑ノ執行ニ當リテハ
其ノ刑ノ執行ニ當リテハ

第十八條

服役限内更ニ罪ヲ犯
シ再ヒ定役ニ服スル
者後犯ノ刑期百日以
内ハ工錢ヲ給與セス

凡シ再犯ノ者ハ其ノ
刑期ハ前ノ刑期ニ加
シテ算スルモノトス

第十九條

囚人ニ給與スル工錢
ノ額ヲ定メ之ヲ交付
シ及ヒ領置スル方法
ハ監獄ノ規則ニ從フ

○山田始審裁判所

十五年二月十三日質問

同 年五月廿二日回答

第二條刑法附則第二十條ニ罰金科料云々犯人身死スル時ハ徵收
セス云々トアリ右ハ裁判確定ノ前ニ於テ犯人ノ死亡シタル時
云フ至又應禁物ヲ除クノ外沒收ス可キ物件ニ付テモ同上ノ處
分ニ可及ハ勿論ノコナルカ又其第五十三條ニ裁判費用ノ宣告ヲ
受ケ未タ之ヲ納メサル前ニ於テ犯人身死スル時ハ其相續人ヨリ
之ヲ徵收ストアリ右ハ前段ニ反シ裁判確定ノ后犯人死亡シタル
時チ云フカ

回答第二條刑法附則第二十條第五十三條ハ總テ裁判確定後ニ
係ル者トス

第二十條

罰金科料ノ宣告ヲ受
ケ未タ納完セサル前
ニ於テ犯人身死スル
時ハ之ヲ徵收セス附
加ノ罰金ニ於ケル亦
同シ

第二章 監視

第二十一條 監視ハ
主刑ノ終リタル後仍
ホ將來ヲ檢束スル爲
メ警察官吏ヲシテ犯
人ノ行狀ヲ監視セシ
ムル者トス

○根室縣 (十五年四月廿四日伺) 內務省合議

刑法ニ依リ監視ニ付セラレタル者處分方ノ義ニ付テハ明治十四
年十二月第六十七號公布刑法附則第二章第三章ノ趣モ有之本人居
住地ノ警察官吏ニ於テ其行狀ヲ監視シ且謹慎ヲ表スル爲メ定限
通警察所ニ出頭セシムヘキ等ノ處當縣管內ノ義ハ土地廣漠加之
離島ヲモ管轄致居候其警察署ヲ去ル數十百里ニ亘リ候地方モ有
之監視ニ付セラレタル者ヲシテ斯ク遠地ヨリ出頭爲致候義ハ到
底不被行義ト被存候條右等住所遠地ニアル者ハ該地郡役所又ハ
戶長役場へ本人ノ行狀ヲ監視セシメ可然哉北海道ノ義ハ治罪ノ
手續等モ便宜處分ノ義公布相成居當縣下ノ如キ殊ニ内地ト同軌
ノ處分ニ至リ兼候現況ニ有之候間景狀御洞察相成度候

指令伺ノ通

(理由) 內務司法兩卿ヨリ太政官へ仰允裁候上右指令ヲ付セ
ラル

○札幌縣 (十五年八月三日) 同省合議

輕罪ノ刑ニ於テ監視セラレシ者其期限間公權ヲ停止スルハ勿論
ナリ然ルニ曾テ他ニ貸金若干圓アリテ負債主ニ於テ義務ヲ果サ

ハルヨリ自カラ法術ニ訴フル者アリ右ハ刑法第三十一條各項ニ
正條ナシ且治産ノ禁ヲ受ケタル者ニ非サル上ハ無論犯則ノ限ニ
無之儀ト心得可然哉
指令伺ノ通

第二十二條

監視ニ付ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ主刑ノ終リタル時獄司ヨリ犯人ヲ其住居ノ地ノ警察所ニ護送シ監視ヲ執行セシム主刑ノ期滿免除ヲ得タル者又ハ主刑ヲ免シ止メ監視ニ付スル者ハ其裁判所ノ檢察官ヨリ警察所ニ護送ス可シ
十五年八月十二日布告

○和歌山縣 (十五年一月十日伺) 全年全月廿五日付
第一條客歲十二月第六十七號御布告刑法附則第二十二條及ヒ第四十二條等ニ據ケラレタル典獄ヨリ犯人ヲ警察所ニ護送スルハ押丁ヲシテ執行セシムル義ニ候哉或ハ護送人ヲ附スルニ及ハサル者ニ候哉

指令第一條押丁又ハ護送人ヲシテ護送セシム可シ
○本更津始審廳檢事 (十五年二月十日請訓) 全年二月廿日內訓
刑法附則第二十二條監獄則第十條囚人護送手續第一條ニ因レハ

軀刑ノ言渡ヲ受ケタル囚人ハ檢事ニ於テ處刑宣告ノ謄本又ハ板書ヲ付シ監獄署ニ回送スヘキニ似タリ右ハ附加ノ監視ニ處セラレシモノ又ハ新メ入監スル者及ヒ護送ノ囚人ニ限ル可キ歟將ニ休刑ヲ受ケタル囚徒ニハ總テ添付スヘキ者ニ候哉
內訓檢察官休刑ノ言渡ヲ執行セシムルハ必ス裁判官渡ノ謄本若クハ板書ヲ執行ヲ爲ス可キ者ニ交付スル儀ト心得ヘシ

○京都府 (十五年三月卅一日伺) 十五年四月十五日付
第五條刑法附則第二十二條ニ監視ニ付ス可キ者ハ豫メ住所ヲ定メシメ云々ト有之此住所トアルハ本籍寄留止宿所 (自宅又ハ一

者若クハ引取人)ノ別ナク本人カ以後住所ト定ムル旨申立ル場所ト心得可然哉
指令同ノ通

○神奈川縣 (十五年三月十五日伺) 內務省合議 全年四月四日付
刑法附則第二十二條ニ監視ニ付スヘキ者ハ 中略 其住居ノ地ノ警察署ニ護送云々ト全第二十四條ニ日程ヲ過クル者ハ 中略 最近

ノ警察署ニ護送云々トアリ就テハ當縣監獄ノ如キハ平素囚員ノ過半ハ外役ニ服セシメ隨テ護衛者モ亦多分ヲ要シ兼テ看守人ノ不足ヲ生シ困難罷在候處加フルニ本年一月中役場回祿ニ罹リ又一層ノ外役ヲ増シ戒護人員配置殆ント方法盡キ居候處前顯果シテ一日程以內ハ居住ノ警察署迄護送スルコトセハ監視執行ヲ爲ス可キ者或ハ一日ニ數名ニ及ブモ絶テ無之ノ日ハ稀ニシテ且一犯人毎ニ各別護送者ヲ要スル事情不鮮護衛ノ多分ヲ要スル如斯次第ニ有之候條右ハ居住地ノ遠近ニ拘ハラス都テ最近ノ警察署ニ護送可致候致度

指令同ノ趣實際已ムテ得サル場合ニ於テハ當分ノ內閣屆候事
○千葉縣 (十五年五月八日伺) 內務省合議 全年六月日付

第四十二號ヲ以テ左ニ改正

第二十二條 監視ニ付ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ主刑ノ終リタル時典獄ヨリ最近ノ警察所ニ護送シ其警察所ヨリ住居ノ地ノ警察所ニ送致シ監視ヲ執行セシム但主刑ノ期滿免除ヲ得タル者又ハ主刑ヲ免シ止メ監視ニ付スル者ハ其裁判所ノ

檢察官ヨリ護送ス可
シ

第一條刑法附則第二十二條前略主刑ノ終リタル時典獄ヨリ犯人
ヲ其住居ノ地ノ警察署ニ護送シ云々又ハ主刑ヲ免シ止テ監視ニ
附スル其ハ其裁判所ノ檢察官ヨリ警察署ニ護送スヘシトアリ依
テ同則第二十三條監視ノ起算滿期ヲ記載シタル文書ハ主刑ノ終
リタル監視者ニハ典獄ニ於テ其文書ヲ調製シ止テ監視ニ付スル
者ニハ檢察官之ヲ調製スル儀ト相心得候處右文書悉皆檢察官ニ
於テ調製ノ向モ有之處分方區々ニ涉リ差支候條如何取扱可然乎

指令第一條前段見込ノ通

第二條刑期滿限ノ者解放又ハ既決囚ニシテ死亡ノ者ハ原裁判所
及ヒ檢察官ニ通報スルノ手續監獄則ニ無之明治十二年十月御省
乙第四十五號御達ノ旨モ有之義ニ付行政ノ處分ニ止マル義ト相
心得可然乎

指令第二條同ノ通

○大坂府 十五年七月十九日伺同八月三日付

第一條附加刑中監視ノ執行ハ警察官ノ責任ニシテ刑法附則第二
十二條ニ據リ犯人ヲ警察官ニ交付シタル後ハ司獄官ニ於テ毫モ
關係無之儀ト相心得可然哉

指令第一條同ノ通

○前橋輕罪廳檢事(十五年十月廿六日伺
十一月十五日付)

第三條明治十五年第十號公達囚人護送手續ハ本省ヘノ達ニアラ
サレハ裁判所ニ於テ該手續ニ準據セサルハ勿論ナルカ
指令第三條同ノ通

○鹿兒島始審廳長判事(十五年二月十七日伺 同月廿二日付)

監獄則第十條ニ新コ入監スル者アルハ典獄先ツ云々又ハ處刑
宣告等ノ文書ヲ查閱シ云々又刑法附則第二十三條犯人ヲ警察署
ニ護送スルハ其監視ノ起算滿期ヲ記載シタル文書及ヒ刑名宣
告書ノ謄本ヲ附ス可シト有之候處右謄本ハ總テ裁判官渡書ノ全
文ヲ謄寫シ交付ス可キ者トセハ典獄ニ於テハ蓋シ實際格別ノ功
用ナクシテ書記局ノ手數大ニ増加シ隨テ許多ノ人員ヲ要ス可キ
ニ付該謄本ハ受刑者ノ氏名年齢身分職業住所出生ノ地及ヒ犯罪
事件犯罪ノ地適用シタル法律規則言渡シタル刑等ヲ摘記シタル
抜書ヲ作り交付シ可然哉

指令伺ノ通

○大坂府 十五年七月十九日伺同年八月三日付

第二條刑法附則第二十三條コ犯人ヲ警察所ニ護送スル時ハ其監
視ノ起算滿期ヲ記載シタル文書及ヒ刑名宣告書ノ謄本ヲ附スヘ
シト有之右起算滿期トハ主刑ノ終リタル日ヨリ監視ニ付ス可キ
月數(何年何月何日ヨリ監視)ヲ記載シタル文書ト相心得可然哉
又ハ滿期ノ日限迄モ計算(何年何月何日ヨリ何年何日迄)監視何
ケ月ト記載スルノ類)記載可

第二十三條

犯人ヲ警察所ニ護送
スル時ハ其監視ノ起
算滿期ヲ記載シタル
文書及ヒ刑名宣告書
ノ謄本ヲ附ス可シ

致義ニ候哉

指令第二條起算ノ日并滿期ノ日限ヲモ記載スヘキ者トス

(理由)第二條刑法附則第二十三條其監視ノ起算滿期トハ主刑
ノ終リタル日ヨリ監視ニ付ス可キ月數并ニ監視ヲ終ル日限
ヲモ記載ス可キ者トス

第三條第二條後項ノ如ク滿期ノ日限迄モ記載スルモノトセハ日
數誤算等ニ係ル過誤ハ監視ノ主管タル警察官ニ歸スヘキ哉將タ
文書ヲ發シタル司獄官ニ歸スヘキ哉

指令第二條過失ノ責ハ期限ヲ記載シテ交付スル獄司ニ在リト
ス

○島根縣十五年一月廿六日伺

同 年二月廿一日付

第二條全則第廿五條ノ旅券全第廿六條ノ監視ノ票ハ一定ノ式御達相成候義ニ候哉又ハ縣廳限適宜相定メ可然哉

指令第二條後半伺ノ通

○三重縣 十五年五月十五日伺全月廿六日付

第二項同則第二十五條第三十條ニ前略 其里程ヲ計リ云々トアリ

右里程ヲ計リ日數ヲ限定スルトハ犯人体格ノ強弱及犯人ヲ發送

セントスル日ノ時ノ早晚ニ依リ便宜里程ヲ計リ日數ヲ定ムル儀

ニテ別ニ一日行程トハ何里トノ御達ハ無之儀ト相心得可然哉

指令第二項一日程トハ片道八里ノ儀ト心得可シ

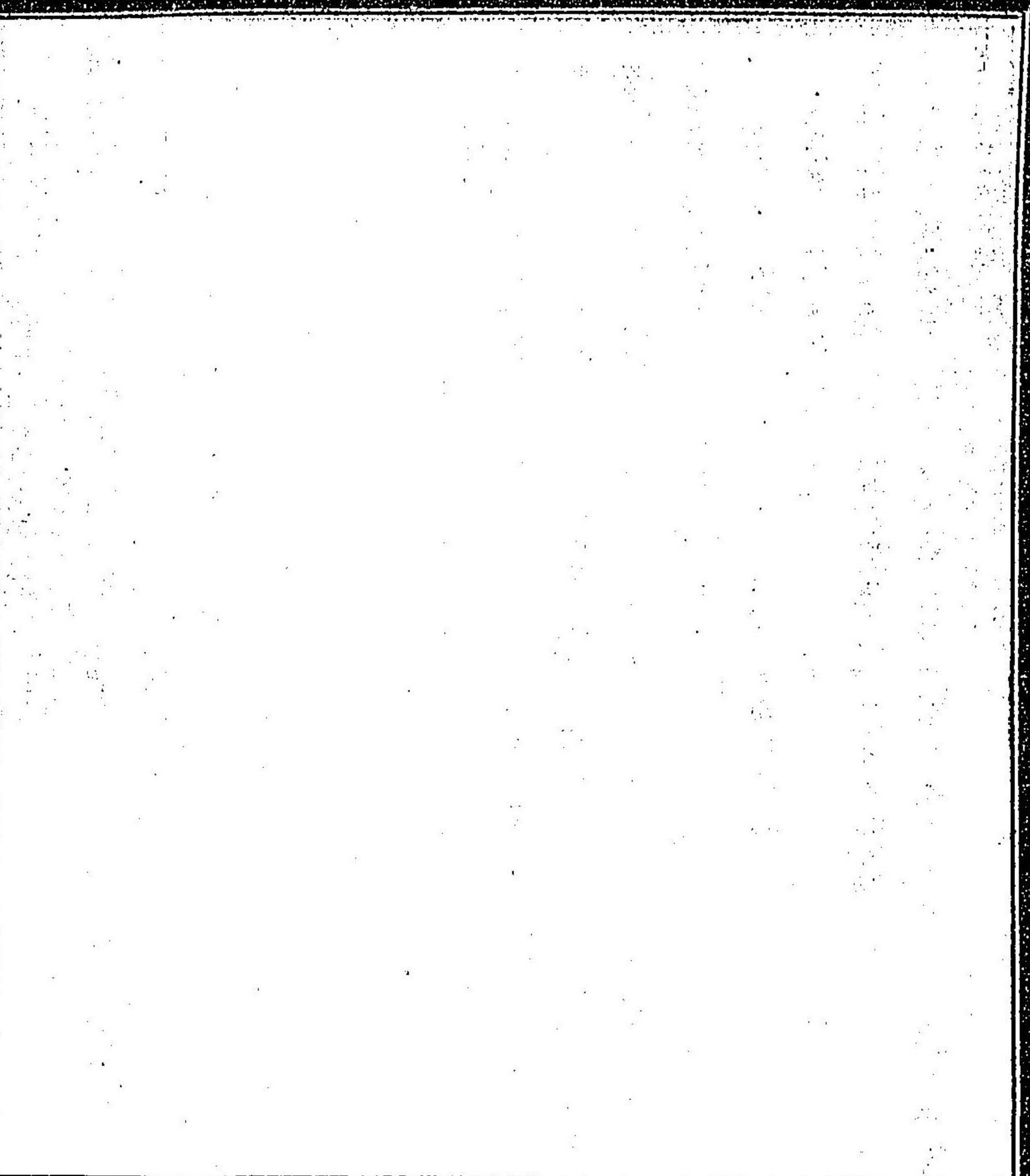
第二十五條

警察所ヨリ犯人ヲ住居ノ地ノ警察所ニ送致スル時ハ其里程ヲ計リ日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與シ犯人到着ノ日直チニ之ヲ其地ノ警察所ニ差出サシム但途中事故アリテ淹滞シタル時ハ第三十一條ノ例ニ從フ可シ
犯人ヲ送致スル時ハ第二十三條ニ記載シ

タル書類ヲ其地ノ警察所ニ遞送ス可シ

送付可スル
送付可スル
送付可スル
送付可スル
送付可スル
送付可スル
送付可スル
送付可スル
送付可スル
送付可スル

第二十六條
犯人住居ノ地ノ警察所ニ於テハ監視ノ期限間遵守ス可キ條件ヲ讀聞カセ監視ノ票ヲ下付ス可シ



○栃木縣(十五年一月十二日付)電報
刑法附則第二十七條第四項ニ他ノ地方トアルハ警察署管轄外ヲ云フカ又ハ縣ノ管轄外ヲ云フカ同第三十六條ノ場合ニ於テ假ニ監視ヲ免ルス一ハ證據ヲ與フルヤ

指令刑法附則第二十七條第四項他ノ地方トアルハ縣ノ管轄外ヲ云フ第三十六條ノ場合ニ於テハ同ノ通

○京都府(十五年二月廿五日付)
同(十五年三月十五日付)

第二條刑法附則第二十七條第二項ニ酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ許サストアルハ專ラ娛樂ヲ禁ゼラルノ精神ニシテ貸席業ヲ營ミ或ハ群集ノ場所ニ於テ商業ヲ爲スハ差支無之儀ト心得可然哉

指令第二條同ノ通

(理由)監視ニ付セラレタル者貸席業ヲ營ミ或ハ群集ノ場所ニ於テ商業ヲ爲スノ件右ハ其生ヲ營ム爲メ此等ノ所爲ヲ爲ス者ハ刑法附則中酒宴遊興ノ席ニ會シ群集ノ場所ニ參會スルト其趣意ヲ異ニスル者ナルコ因リ之ヲ禁ゼサルモ差支ナキ儀ト考量ス

監視

第二十七條
監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條件ヲ遵守ス可シ
一 毎月二度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルコヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ己ムコヲ得サル事故アリテ警察所ニ到ルコ能ハサル時ハ其事由ヲ届ク可シ

○群馬縣(十五年三月三日伺)

刑法附則第七條第二十條ニ他ノ地方トアルハ勿論他府縣下ヲ指ス義ニ候得ハ不止得旅行スルノ原則ニ付行商人又ハ人力車夫ノ如キ旅行ヲ職業トスル者ト雖モ許可ス可キ筋ニハ無之儀ト心得可然哉又ハ行商人人力車夫ノ類接近スル他ノ地方幅濶ノ爲メ平素該地ニ出入セサレハ其業ヲ營ミ難キ者ハ則チ不得止者ニ付請願ニヨリ一ヶ月或ハ二ヶ月ヲ限り其理由附シタル旅券ヲ豫メ渡シ置キ候モ不苦哉

但本條ノ者管内ニ於テ往復營業スル者ハ適宜ノ法ヲ定メ監視シ可然哉

指令行商人人力車夫等ノ其住所ニ接近シタル他ノ地方ニ出入スルニ非サレハ業ヲ營ミ難キ者ハ許可スルモ苦シカラズ但シ一泊以上ニ及フ者ハ規則ニ從ヒ旅券ヲ給ス可シ

但書監視ノ規則ニ從ヒ取締ヲ爲ス可シ

(理由)第二十七條第四項他ノ地方ニ旅行シハ眞ノ旅行ヲ謂フ者ニシテ行商人人力車夫等ノ營業ノ爲メ自己往所ニ接近シタル他地方ニ出入スルハ(旅券ヲ給スルニ及ハス)無論之

- 二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ許サス
- 三 事故アリテ其住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ
- 四 擅ニ他ノ地方ニ旅行スルヲ許サズ
- 若シ已ムヲ得サル事故アル時ハ其事由ヲ警察所ニ具申シ許可ヲ受ク可シ

○鹿兒島縣(十五年三月十日伺)

監視ニ附セラレタル者他ノ地方ニ旅行ノ儀ハ客歲第六十七號布告刑法附則第二十七條第四項及第三十條第三十一條ニ載テ明文有之被監視者ニ旅行ヲ許サ、ルハ法文ノ精神ニシテ己ムヲ得サル時ニ限り許可スル者ナル處其被監視者中船乘飛脚行商營業上旅行ヲ常トスル者ハ何レモ己ムヲ得サル者ト見做シ其旅行ヲ許可シ可然哉果シテ許可スル者トセハ其航海途中寄港陸地滞在等ノ都合有之往復日數并滞留時日共限定シ難キニ付其實質ヲ具シ出願候節ハ審糾許可ノ上該指令書ヲ携帶爲致別段旅券附與セシテ可然哉實際處分方ニ差支候

指令伺ノ趣旅行ヲ許可スルモ苦シカラズ但被監視者ヲシテ略ホ旅行滞留日數等ヲ豫定セシメ其旅券ヲ付與ス可シ若シ旅行中不得止事故ニテ淹滞シタル時ハ其事由ヲ警察所ニ具申セシム可シ

(理由)被監視者船乘飛脚行商等ヲ營業スル者ニテ常ニ旅行ヲ要スル者ハ己ムヲ得サル者ト見做シ其旅行ヲ許可シ然ル

ヘシ又此等ノ者ノ旅行ヲ許可スルニハ旅行航海寄港滯留并ニ其日數等限定シタル旅券ヲ附與セズ單ニ無限ノ旅行航海ヲ許可スル指令書ヲ携帶セシムルノ例トナルハ往々被監視者ノ監視ヲ免ル、弊害釀成ス可キト考量ス依テ右ノ通

○熊本縣(十五年五月十八日伺) 内務省合議

第三條同則第二十七條第二項酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ許サストハ妓樓或ハ割烹店ニ至リ他人ト開宴スル等ヲ云ヒ群集ノ場所トハ神佛ノ祭典或ハ政談演說會其他諸興行等ノ遊戯ニ參會スル者ヲ制禁シタル者ニシテ假令親屬冠婚等ノ賀宴及葬祭等ノ席ニ參會他人ト集合飲酒シ其他說教所或ハ學術演說會ニ臨場スル等ハ無論本項ノ限外ト相心得可然哉

指令第三條冠婚葬祭其他說教所學術演說會ト雖モ實際酒宴遊興ノ席又ハ群集ノ場所ト看做スヘキ場合ハ刑法附則第二十七條第二項ニ依ル儀ト心得可シ

○神奈川縣(十五年七月十一日伺) 内務省合議

刑法附則第二十七條及全第三十條第三十一條等ヲ參考スルニ監視ニ付セラレタル者ハ一般人民トモ相違シ一層監視ヲ加フ可キ

者ニシテ外國ハ固ヨリ假令内國カリトモ遠隔ノ嶋嶼等警察署アラサル地ニ旅行ノ義差許候テハ監護上不行届モ有之ヘクニ據リ決シテ許可セサル者ト相考候得共聊カ疑團ヲ生シ候

指令伺ノ趣警察署アラサル地ニ於テハ戶長警察ノ事務ヲ行フ可キニ付旅行差許シ苦シカラス

但外國旅行ハ差許サ、ル儀ト心得可シ

○札幌縣(十五年五月十二日伺) 同省合議

第一條刑法附則第二十七條ノ第一項ニ毎月二度所轄ノ警察所ニ至リ謹慎ヲ表スル爲メ監視ノ証憑ヲ出シ官吏ノ認印ヲ可受云々ト有之處當縣下ノ如キハ未タ警察分署ノ設置普カラス其所轄警察署ニ至ルノ間三泊或ハ四泊ヲ要スル里程ノ場所アリト雖モ毎月兩度監視ノ証票ヲ出スハ警察署ニ限ル儀ニ候哉右ニテハ一月兩度ノ往復日數殆ント半月ヲ費シ營業上大ニ差響ヲ生ス可クニ付所轄警察署ヲ距ル一泊以上ヲ要スルノ場合ニ於テハ其地ノ郡役所又ハ戶長役場ニ於テ証票ヲ差出シ認印ヲ受クル儀ハ相成ラス候哉

指令第一條後段伺ノ通執行シ苦シカラス

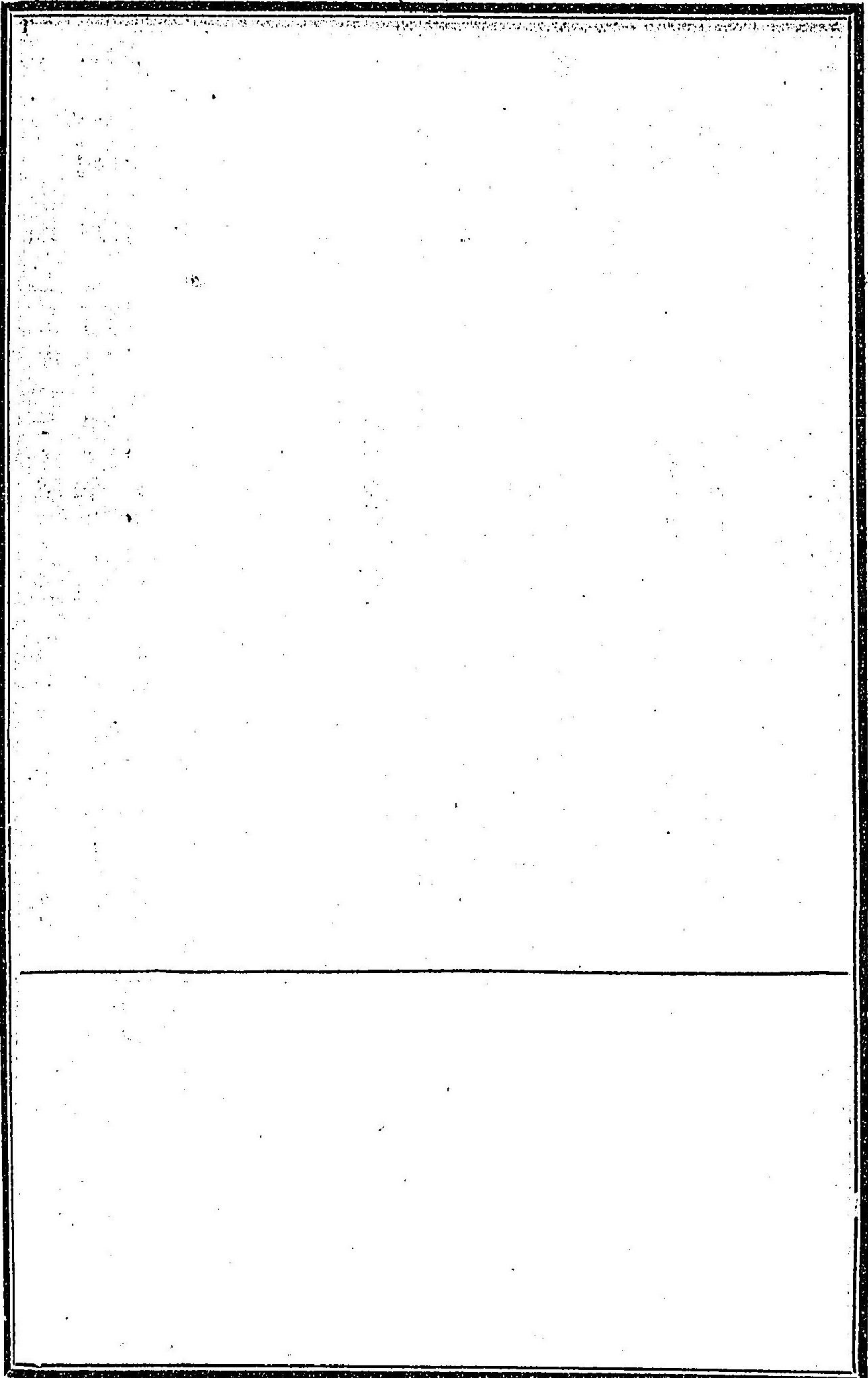
○松江始審廳判事(十五年九月十五日伺) 内務省合議
 刑法附則第二十七條第一每月二度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナ
 ルヲ表シ監視票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シトアリ然ルニ島
 根縣ニ於テハ別紙監視票裏面ノ如キ一度ハ一日ヨリ十五日マテ
 一度ハ十六日ヨリ其月中云々ト限レリ今爰ニ前半月中ニ監視ニ
 付セラレタル者ノ如キハ其監視表授受ノ際謹慎ノ意ヲ表シタル
 者トナシ其月下半月一度ノミ出頭スル者手又ハ上半月ニ相當ス
 ル一度モ出頭スル者手

内訓伺ノ趣後段見込ノ通

○松江始審廳判事(十五年十月三十日伺) 内務省合議
(同年十二月十二日内訓)
 先般乾第十九號ヲ以テ監視規則ノ義ニ付(上略)前半月中ニ監視
 ニ付セラレタル者ノ如キハ其監視表授受ノ際謹慎ノ意ヲ表シタ
 ル者トシ其月下半月一度ノミ出頭スル者手又ハ上半月ニ相當ス
 ル一度モ出頭スルモノ乎云々相伺ヒタルニ御省第五七二六號ヲ
 以テ後段見込ノ通リト内訓相成候處今マ後半段ノ如ク出頭スル
 者トセバ茲ニ月ノ十四日ヨリ監視ニ付スベキ者ニテ其日監視ヲ
 授受シタル者アリトセシニ上半月ノ日數少カニ一日間ナルモ伺

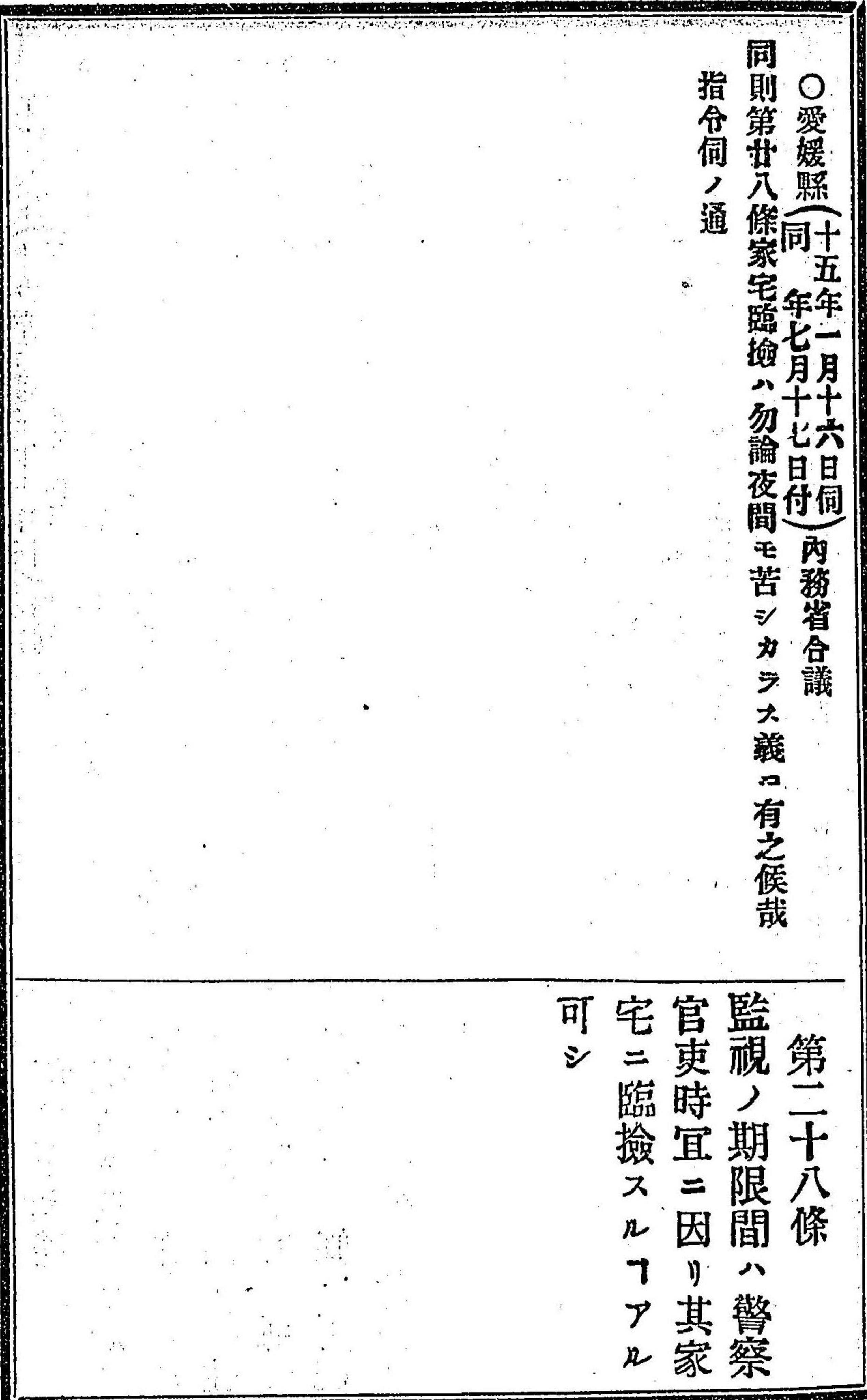
ホ一度ハ出頭セザルヲ得ザル可ク又之ヲ類推スル時ハ月ノ十六
 日ニ監視ノ期日滿ツ可キ者モ其日ニ伺ホ一回出頭セザルヲ得ザ
 ルベク若シ此ノ例ノ場合ニ於テ出頭セザルキハ刑法ニ因リ處斷
 セザルベカラザル者ノ如シ然ルニ監視規則ノ正條タル刑法附則
 第二十七條ニハ偏ヘニ毎月二度所轄警察署ニ到リ云々トアリテ
 一ヶ月毎ニシテ其月毎ニ二度警察署ニ到リ云々トアリテ一ヶ月
 ニ滿タル時モ亦全シ等ノ明文アルナシ故ニ其毎月トアルハ滿一
 ケ月毎ニシテ其月毎ニ二度警察署ニ到リ云々トノ旨趣ナルベシ
 然ルチ其月十四日ニ監視ニ付セラレタル者又ハ其月十六日ニ監
 視滿期ノ者モ滿月ノ者ト同視シ警察署へ出頭謹慎ノ意ヲ表ス可
 キモノトシ其出頭セザル者ヲ刑法ニ處スルハ聊カ不穩當ヤニ相
 覺ヘ候ニ付固ヨリ右監視規則ノ如キハ行政ノ處分ニ屬スルモノ
 ナレトモ重テ相伺候

内訓監視規則ノ儀ニ付再伺ノ趣ハ前内訓ノ通心得可シ
 但シ十六日ニ滿期ノ者ハ別段其日ニ出頭スルニ及バズ



○愛媛縣(十五年一月十六日伺)内務省合議
同則第廿八條家宅臨檢ハ勿論夜間モ苦シカラス義ニ有之候哉
指令伺ノ通

第二十八條
監視ノ期限間ハ警察
官吏時宜ニ因リ其家
宅ニ臨檢スルヲアル
可シ



○岐阜縣(十五年二月二十一日伺) 内務省合議

第二項全則第二十五條第二十九條ニ書類ヲ遞送ス可シトアリテ
其手續分明ナラヌ一々脚夫ヲ傭ツテ遞送スレハ其費用實ニ少小
ニアラス又郵便ニ付スレハ土地ニ依リテハ到達スヘキ日數甚タ
延滞スルヲアリ殊ニ避地ナ然リトス然ルニ被監視ハハ里程ニ應
旅行日數定限アル故ニ先ニ到着シテ所轄警察署ニ届出ルモ警察
署ニ於テハ右證據書類ノ到達延滞ニヨリ監視票ヲ下付スル因由
モナク如何トモ爲シ難キ場合有之右ハ如何取計可然哉

指令第二項警察遞傳ハハ郵便等費用ノ嵩マサル様適宜處分ス
ヘシ

○福井縣(十五年十月廿四日伺) 内務省合議

茲ニ監視ニ付セラレタル者アリ其期限中甲警察所ヨリ乙警察所
亦ハ甲縣ヨリ乙縣ヘ住居ヲ轉スル時ハ刑法附則第二十九條ニ依
リ其事由ヲ轉任ノ地ノ警察所ニ通知シ第二十三條ニ記載シタル
書類ヲ遞送スルニ止ツテ旅券ヲ附與スルニ不及儀ニ可有之哉果
シテ然カリトセハ幾カノ里程ニ幾日費スモ責ムルノ道無之實際
取締上ニモ關係スル義ニ付同則第二十五條ヲ通用シ旅券ヲ附與

第二十九條

警察所ニ於テ住居ヲ
轉スルヲ許可シタ
ル時ハ其事由ヲ轉任
ノ地ノ警察所ニ通知
シ第二十三條ニ記載
シタル書類ヲ遞送ス
可シ

シ可然義ニ可有之哉
指令後段伺ノ通

○長崎縣(十五年四月廿九日伺)内務省合議

第三條同第二十條第二項犯人先方ノ地ニ到レハ其地ノ警察所ニ出テ旅券ヲ示シ官吏ノ認印ヲ受ケ限定ノ日數内ニ歸來リ直ニ旅券ヲ警察所ニ還納ス可シト有之候處其旅行日數々月ニ涉ルト雖モ其滞留地所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎(毎月二度ノ)定規ヲ云フ)ヲ表スルコト不及義ニ候哉

指令第三條滞留地所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ヲ表ス可シ

○新潟縣(十五年五月十五日伺)内務省合議

第四條同第二十條ニ他ノ地方ニ旅行スルコトヲ許可シタル時ハ云々旅券ヲ附與スベシトアリ之レニ依テ之レヲ觀レハ他ノ地方ニアラザレハ旅券ヲ附與セザル者ノ如シ然ラバ他ノ地方ニアラザレハ一泊或ハ數泊ニ涉ルモ旅券ヲ附與セザル義ニ候哉
指令第四條其府縣管轄地内ナル時ハ見込ノ通り

第三十條

他ノ地方ニ旅行スルコトヲ許可シタル時ハ其里程ヲ計リ先方ノ地ニ滞留スル時日ヲ算シ往復日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與ス可シ
犯人先方ノ地ニ到レバ其地ノ警察所ニ出テ旅券ヲ示シ官吏ノ認印ヲ受ケ限定ノ日數内ニ歸來リ直ニ旅券ヲ警察所ニ還納

スベシ

○愛媛縣 (十五年二月廿八日伺)

同法第三十一條旅行中天災又ハ疾病等ニ依リ臨時淹滞シタル時ハ事由ヲ其地ノ警察署ニ具申シ官吏ノ証書ヲ受ケ云々ト有之若シ淹滞ノ地ニ警察署又ハ分署及ヒ巡查交番所無之時ハ隔地ノ警察署ニ具申シ証書ヲ受ケ可キ義ニ有之候哉果シテ然ラハ徒ラニ往復ノ日子ヲ費シ且本則取締ノ道モ反テ難相立様相成候ハシ歟ト思考被致候間前顯ノ場合ニ於テハ其地戸長ノ証書ヲ受ケ候義ト相心得可然哉
指令第二項不得已場合ニ於テハ伺ノ通

第三十一條

旅行中天災又ハ疾病等ニ依リ臨時淹滞シタル時ハ事由ヲ其地ノ警察署ニ具申シ官吏ノ証書ヲ受ケ候義ト相心得可然哉
指令第二項不得已場合ニ於テハ伺ノ通

○福岡縣 (十五年三月六日伺) 內務省合議

第二項同則第三十二條監視ニ付スル者住居ナク及ヒ引取人ナキ時ハ其期限間監視中別房ニ留置シ云々トアリ犯人住居及ヒ引取人アルモ遠地ニシテ途中旅費所持セサル者ハ警察署ヨリ附與スル旅券ヲ以テ途中村役場等ニ於テ繰替拂ニテ退テ本人ヨリ返戻セシメ若シ逃走ヲナシ返戻スルヲ得サル時ハ其親戚或ハ犯人住居地ノ町村ヨリ仕拂可然哉又ハ旅費金所持セサル者ハ引取人無之者ト見做監獄ノ別房ニ留置可然哉
指令第二項第三十二條末段ノ通心得可シ

第三十二條

監視ニ付スル者住居ナク及ヒ引取人ナキ時ハ其期限間懲治場ニ留置シ工業ヲ爲サシメ又ハ使役ニ供スル資力ナキ者亦同

○茨城縣 (十五年十月二日伺) 同省合議

第二條監獄則第二十七條第二項ハ監署ニ留置セシ金錢ハ出獄者ニ携帶セシメス其金品ヲ錄シテ共ニ其地ノ警察官 (治罪法第六條第二項ニ記載シタル官吏) ニ送致スヘシトアルニ依リ領置セシ金錢ハ總テ携帶セシムルヲ得サル義ニ可有之然ルニハ刑法附則ニ從ヒ最近ノ警察所ニ於テ送致ノ手續ヲナシ旅券ヲ付與スルモ金錢ハ携帶セシメザルニヨリ住居ノ地遠地ニ在ル時ハ其ノ地ニ歸着スルノ費用 (止宿料等) ナキヲ以テ歸着スルヲ能ハサル者アリ右等ノ場合ニ於テ

十四年十二月廿八日內閣書記官ヨリ正誤

第三十二條ノ(懲治場ニ留置)ハ(監獄中別房ニ留置)ノ誤

ハ如何取扱可然哉
指令第二條路程ヲ計リ必用ノ路費與フベク餘ノ金錢ハ監獄則
第二十七條末項ニ據ル可シ

監獄ニ入ル者ハ其ノ身ヲ檢査スルニ當リ其ノ衣服及ヒ其ノ所持ノ物ヲ檢査スルコトヲ得ル
其ノ檢査ノ結果ニ依リテ必要ナル場合ニ於テハ其ノ衣服及ヒ其ノ所持ノ物ヲ没収スルコトヲ得ル
其ノ没収ノ物ハ其ノ檢査ノ結果ニ依リテ必要ナル場合ニ於テハ其ノ没収ノ物ヲ没収スルコトヲ得ル
其ノ没収ノ物ハ其ノ檢査ノ結果ニ依リテ必要ナル場合ニ於テハ其ノ没収ノ物ヲ没収スルコトヲ得ル

第三十三條

懲治場ニ留置シタル
者限内引取人ヲ得又
ハ住居ノ地ニ歸着ス
ル資力ヲ得タル時ハ
其地ニ送致シテ殘期
ノ監視ヲ執行セシム
可シ

十四年十二月廿八日內

圖書記官ヨリ正誤

第三十三條ノ(懲治
場ニ留置)ハ(監獄中
ノ別房ニ留置)ノ誤

監獄ニ入ル者ハ其ノ身ヲ檢査スルニ當リ其ノ衣服及ヒ其ノ所持ノ物ヲ檢査スルコトヲ得ル
其ノ檢査ノ結果ニ依リテ必要ナル場合ニ於テハ其ノ衣服及ヒ其ノ所持ノ物ヲ没収スルコトヲ得ル
其ノ没収ノ物ハ其ノ檢査ノ結果ニ依リテ必要ナル場合ニ於テハ其ノ没収ノ物ヲ没収スルコトヲ得ル
其ノ没収ノ物ハ其ノ檢査ノ結果ニ依リテ必要ナル場合ニ於テハ其ノ没収ノ物ヲ没収スルコトヲ得ル

○和歌山縣 十五年七月廿日伺同年九月八日付

刑法附則第三十四條中監視ノ期限間再ヒ罪ヲ犯シ更ニ監視ニ付
ス可キ時ハ并ニ主刑滿期ノ後前後ノ期限ヲ通算シテ監視ヲ執行
ス可シト有之候處茲ニ監視限内其監視規則ヲ犯ス者アリ右ハ其
犯者ヲ逮捕シタルヨリ裁判宣告迄ノ日數則チ豫審中拘留保釋責
付セラレタル日數ノ如キハ刑期間ト同シク殘ル監視ノ日數ニ算
入スヘカラサル義ト相心得可然哉

指令伺ノ趣拘留中ノ日數ハ期限ニ算入スルコトヲ得ス責付保釋
ニ係ル者ハ直ニ監視ヲ執行ス可キ儀ト心得可シ

○和歌山始審廳檢事 十五年十月廿七日付

曩ニ監視期限計算ノ儀ニ付別紙甲號ノ通相伺ヒ朱書ノ通御指令
ヲ受ケ候處和歌山縣ヘハ別紙乙號朱書ノ通御指令相成居候右ハ
何レニ從ヒ可然哉更ニ相伺候也 (乙號和歌山縣 伺ハ先ニ出ツ)

甲號

○和歌山始審廳檢事 十五年七月十八日伺

第一條監視ニ付セラレタル者監視ノ期限中再ヒ罪ヲ犯スニ因リ
逮捕入監シタル時ハ監視ヲ執行セサルヲ以テ右逮捕入監中ノ時

第三十四條

刑期限内再ヒ罪ヲ犯
シ初犯再犯共ニ監視
ニ付ス可キ時又ハ監
視ノ期限間再ヒ罪ヲ
犯シ更ニ監視ニ付ス
可キ時ハ並ニ主刑滿
限ノ後前後ノ期限ヲ
通算シテ監視ヲ執行
ス可シ

日ハ監視期限内ニ算入セサル義ニ有之候哉

第二條前條監視ノ期限中再ヒ罪ヲ犯スニ因リ逮捕入監セラレタ
ル者保釋若クハ責付ヲ得タル時モ亦其保釋責付ノ時日ヲ監視限
内ニ算入セサル義ニ有之候哉

甲號 指令伺ノ通

指令監視ヲ執行セサル日數ハ拘留保釋責付ヲ分タス監視期限

内ニ算入セス但責付保釋ニ係ル者ハ實際監視ヲ執行シ得ヘキ

ニ付乙號ノ通和歌山縣ヘ指令ヲタル者トス

○京都府 十五年十二月十四日伺

第一條監視期限内其規則ニ違背シ又ハ他ニ罪ヲ犯シ (監視ノ付
罪ヲ) 重禁錮等ニ處セラル、者アリ右ハ該主刑滿限ノ後ハ殘餘
ノ監視ヲ執行セサルヲ不得因テ此場合ニ於テモ亦更ニ刑法附則
第二十二條第廿三條等ノ手續ヲ履行スヘキ義ト心得可然哉
第二條刑ノ執行ハ總テ檢察官ヨリ指揮アル儀ニ付前條殘餘ノ監
視執行ニ付テモ典獄コ對シ檢察官ヨリ更ニ指揮アルハ勿論又殘
期日數モ共ニ通知アル者ト相心得可然哉

指令第一條第二條伺ノ通

第三十五條

罰金ヲ禁錮ニ換ヘタル者監視ニ付ス可キ時ハ其禁錮ノ日數ヲ監視ニ算入スヘシ有之候處刑法主刑處分ノ各條中換禁錮者ヲ監視ニ付スルノ明文ナキニ因リ本條ハ刑法第九十九條ノ如キヲ犯シ罰金ノ主刑及ヒ監視ノ附加刑ニ處セラレ限内納完スル能ハスシテ禁錮ニ換ヘラレタル者アルハ處分方ヲ示シタル者ト心得可然哉

○前橋輕罪廳檢事(十五年八月十四日伺)
第二條刑法附則第三十五條ニ罰金ヲ禁錮ニ換ヘタル者監視ニ付ス可キ時ハ其禁錮ノ日數ヲ監視ニ算入スヘシ有之候處刑法主刑處分ノ各條中換禁錮者ヲ監視ニ付スルノ明文ナキニ因リ本條ハ刑法第九十九條ノ如キヲ犯シ罰金ノ主刑及ヒ監視ノ附加刑ニ處セラレ限内納完スル能ハスシテ禁錮ニ換ヘラレタル者アルハ處分方ヲ示シタル者ト心得可然哉
指令第二條罰金ノ刑ニ處セラレタル者ハ刑法第九十九條ノ場合ト雖モ監視ニ付ス可キ者ニ非ス但シ刑法附則第三十五條ハ禁錮罰金ヲ併科セラレ又ハ禁錮ニ處セラレタル者刑期中更ニ罰金ヲ科セラレタル者限内納完スルヲ能ハサル場合等ニ適用スルコトアル可キ儀ト心得可シ
○新潟縣(十五年十一月十八日伺)
同(十五年十一月二十日付)
茲ニ犯罪人アリ重禁錮ニ處シ及ヒ監視ニ付セラレタリ然ルニ本犯之ヨリ先罰金四圓ニ處セラレタルモ之ヲ納完スル能ハサルヲ以テ本犯ノ求メニ依リ右監視期限間ニ四日ノ禁錮(四)ノ日數ハ監視ノ期限ニ算入スヘキ哉

指令同ノ趣刑法附則第三十五條ノ通心得可シ

○福島縣(十五年一月九日同)

第二條第三十六條ニ監視ニ付セラレタル者其規則ヲ謹守シ後改ノ狀アルキハ警察官ヨリ其實ヲ上申シ内務司法兩卿ノ命ヲ受ケ假ニ監視ヲ免スルコトヲ得トアリ右ノ順序ハ警部ヨリ縣令ニ具狀シ縣令ヨリ内務司法兩卿ニ上申スヘキ儀ト相心得可然哉指令第二條警察官ヨリ直ニ内務司法兩卿ニ上申ス可キ儀ト心得可シ

○愛媛縣(十五年一月十六日同)

第十一條同則第三十六條假ニ監視ヲ免サレタルキハ前ニ下付セシ監視票ハ取揚クヘキ義ニ候哉將タ其儘致シ置可キ哉

指令第一條其儘ニ致シ置可シ

○青森縣(十五年七月一日同)

刑法附則第三十六條ニ監視ニ付セラレタル者其規則ヲ謹守シ後改ノ狀アル時ハ警察官ヨリ其實ヲ上申シ内務司法兩卿ノ命ヲ受ケ假ニ監視ヲ免スルコトヲ得ト之レアリ右ノ順序ハ警察官吏ヨリ直ニ兩卿ニ上申シ命ヲ受クヘキ儀ト解釋セラルト雖モ各警察分署等ノ取扱寛嚴區々ノ弊ヲ豫防スル爲メ鄭重ヲ加ヘ小

第三十六條

監視ニ付セラレタル者其規則ヲ謹守シ後改ノ狀アル時ハ警察官ヨリ其實ヲ上申シ内務司法兩卿ノ命ヲ受ケテ假ニ監視ヲ免スルコトヲ得

官ニ於テ調査ノ上具狀スルヲ得ルハ勿論ノ儀ト存候得共爲念此段相伺候也

指令書面警察官吏ヨリ具狀スル儀ト心得可シ

但寛嚴區々ノ弊ヲ豫防スル爲メ地方長官之ヲ調査スルコトヲ得

○岡山縣(十五年十月卅一日同)

第一條刑法附則第三十六條ニ監視ニ付セラレタル者其規則ヲ謹守シ後改ノ狀アル時ハ警察官ヨリ其實ヲ上申云々トアリ右ノ直ニ上申スルコトヲ得サレタル義ニ候ハ、小官ヲ經由シテ上申スルコト及ハス無無ト相心得候得共間々各警察分署ニハ巡查ニ警部補代理ヲ命シタル者有之右ハ仮令巡查タリトモ職ハ前書警部補同様ノ任ヲ負ハセ有之者ニ候得ハ此等ノ者ヨリモ直ニ上申爲致可然哉

指令第一條同ノ通

第二條前條ノ上申御許可ヲ得テ假ニ監視ヲ免シタル者若シ行狀不取締ト確乎見認スル時ニ於テ小官ヨリ再ヒ監視申付可ヘキ乎或ハ警察官限申付ク可然哉

第三條前條再監視申付ケタル時御届ケ致スニ不及義乎

指令第三條第三條假ニ監視ヲ免レタル者行狀不取締ト見認
ル時ハ警察官ニ於テ再ヒ監視ヲ申付ケ其旨ヲ内務司法兩卿ニ
届出ツ可シ

第三十七條

假ニ監視ヲ免セラレ
タル者住居ヲ轉移ス
ル時ハ第二十七條第
三及ヒ第二十九條ノ
例ニ從フ可シ

第三章假出獄及ヒ特別監視

第三十八條

假出獄ヲ許ス可キ者アル時ハ獄司ヨリ其犯人ノ行狀及ヒ刑名入獄ノ年月ヲ記載シ假ニ出獄ヲ許サレンコトヲ内務司法兩卿ニ上申シテ許可ヲ受ク可シ

第三十九條

假出獄ヲ許シタル時ハ獄司ヨリ其證票ヲ犯人ニ下付可シ

第四十條

假出獄證票ニハ左ノ
條件ヲ記載ス可シ

一 本人ノ屬籍氏名年
齡住所罪名刑名及
ヒ處刑ノ年月日

二 殘期何年何月何日
間假出獄ヲ許ス事

三 假出獄中ハ特別監
視ニ付ス可キ事

四 假出獄中更ニ重輕
罪ヲ犯シタル時ハ

直チニ出獄ヲ停止
シ出獄中ノ日數ヲ

○愛媛縣(十五年一月十六日伺)内務省合議
第十二條同則第四十條假出獄票ハ昨十四年第八十一號達監獄則
中ノ者トハ少シシ差違アルカ如シト雖也矢張監獄則中ノ者ヲ用
ヒ可然哉
指令假出獄票ハ彼此異ナルヲナシ

刑期ニ算入セサル
事

○愛媛縣(十五年一月十六日伺) 内務省合議

第十三條同則第四十一條ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者仮出獄中
自ラ財産ヲ治メ若クハ職業ヲ營マントスル時ハ警察署ニ申請シ
許可ヲ受クベシトアリ而シテ刑法第五十五條ニハ治産ノ禁ノ幾
分ヲ免ズルコトヲ得トアレバ勿論全部ニハ及バザル義ニ有之候ヤ
果シテ然ラバ其幾分ト云フニハ制限アルモノナルヤ又警察署ニ
於テ許可スルハ其見込ニヨリ幾分即チ云々ノ事ヲ許ス旨該願書
ニ記載ス可キ義ニ有之候哉

指令第十三條末段伺ノ通

○愛媛縣(十五年五月四日伺) 内務省合議

第一條刑法附則第四十一條重罪ノ刑ニ處セラレタル者假出獄中
自カラ財産ヲ治メ若クハ職業ヲ營マントスル時ハ警察署ニ申請
シ許可ヲ受クベシトアリ而シテ監獄則第二十八條ニハ仮出獄免
幽閉ヲ受ケタル徒刑流刑ノ者其刑期間ハ典獄ニ於テ營業ノ方法
ヲ指示シ云々ト有之右ハ其營業ノ方法ハ典獄之ヲ指示シ本人ヨ
リハ更ニ警察署ニ申請シ警察官之ヲ許可スル義ニ候哉
指令第一條警察署ニ於テ營業ノ許可ヲ受ケタル上ハ典獄ヨリ

第四十一條

重罪ノ刑ニ處セラレ
タル者仮出獄中自ラ
財産ヲ治メ若クハ職
業ヲ營マントスル時
ハ警察署ニ申請シ許
可ヲ受ク可シ

其方法ヲ指示スルコトアルモ更ニ警察署ニ申請スルコト及バズ

其方法ヲ指示スルコトアルモ更ニ警察署ニ申請スルコト及バズ
其方法ヲ指示スルコトアルモ更ニ警察署ニ申請スルコト及バズ
其方法ヲ指示スルコトアルモ更ニ警察署ニ申請スルコト及バズ
其方法ヲ指示スルコトアルモ更ニ警察署ニ申請スルコト及バズ
其方法ヲ指示スルコトアルモ更ニ警察署ニ申請スルコト及バズ
其方法ヲ指示スルコトアルモ更ニ警察署ニ申請スルコト及バズ
其方法ヲ指示スルコトアルモ更ニ警察署ニ申請スルコト及バズ
其方法ヲ指示スルコトアルモ更ニ警察署ニ申請スルコト及バズ
其方法ヲ指示スルコトアルモ更ニ警察署ニ申請スルコト及バズ
其方法ヲ指示スルコトアルモ更ニ警察署ニ申請スルコト及バズ

第四十二條

假出獄ヲ許ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ出獄ノ日獄司ヨリ其證票ノ謄本ヲ添ヘ犯人ヲ其住居ノ地ノ警察所ニ護送シ特別監視ヲ執行セシム可シ

十五年八月十二日第四

十二號布告左ニ改正

第四十二條仮出獄ヲ許ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ出獄

ノ日典獄ヨリ其證票ノ謄本ヲ添ヘ第二十二條ノ例ニ依リ犯人ヲ護送シ特別監視ヲ執行セシムベシ

第四十三條
特別監視ニ付スル者
ハ第二十三條第二十
四條第二十五條第二
十六條第二十九條第
三十一條ノ例ヲ適用
ス

特別監視ニ付セラレ
タル者ハ其期限間左
ノ條件ヲ遵守ス可シ
一 毎週間一度所轄ノ
警察署ニ到リ其謹
慎ナルコトヲ表シ監
視ノ票ヲ出シ官吏
ノ認印ヲ受ク可シ
二 但疾病又ハ己ムコ
トヲ得ザル事故アリ
テ警察所ニ到ルコ
ト能ハサル時ハ其事
由ヲ届出ヅ可シ

第四十四條

特別監視ニ付セラレ
タル者ハ其期限間左
ノ條件ヲ遵守ス可シ
一 毎週間一度所轄ノ
警察署ニ到リ其謹
慎ナルコトヲ表シ監
視ノ票ヲ出シ官吏
ノ認印ヲ受ク可シ
二 但疾病又ハ己ムコ
トヲ得ザル事故アリ
テ警察所ニ到ルコ
ト能ハサル時ハ其事
由ヲ届出ヅ可シ

○大分縣(十五年八月十五日伺)
第三條同則第四十四條第四項ニ往復一日程ヲ過タル地ニ旅行ス
ルヲ許サスト有之右ハ一日程ヲ過ギザレハ他ノ府縣(管轄境近
シ一二里以内ニテ)ニ到ルモ差支ナキ哉

但宿泊スルコトヲ許サズ
指令第三條伺ノ通

○靜岡縣(十五年十月十二日伺)
第一條特別監視ニ付セラレシ者逃走シタル時ハ主刑滿限ニ至ラ
ザル者ナルヲ以テ無論已決ノ囚徒ト認メ刑法第四百二十二條ニ據
リ其罪ヲ治スル儀ト相心得可然哉

第二條果シテ前條ノ見解ノ如クナル時ハ特別監視ニ付セラレ逃
走ヲ爲シタル罪ヲ治スルノ道アリト雖モ其逃走スルコトアラズシ
テ刑法附則第四十四條ノ各項ニ觸ル、所爲アル時ハ如何處分シ
可然哉

指令伺ノ趣兩條トモ刑法第五百五十五條ヲ以テ論ズ可キ者トス
同法第四百二十二條ハ囚禁セラレタル囚徒ノ逃走シタル者ヲ罰
スル法ト心得可シ

二酒宴遊興ノ席ニ會
シ又ハ群集ノ場所
ニ參會スルコトヲ許
サズ
三事故アリテ住居ヲ
轉移セントスル時
ハ警察所ニ申請シ
許可ヲ受ク可シ但
他ノ府縣ニ轉移ス
ルコトヲ許サズ
四往復一日程ヲ過ク
ル地ニ旅行スルコ
トヲ許サズ

第四十五條

特別監視ノ期間ハ
警察官吏時宜ニ依リ
其家宅ニ臨檢スルコ
トアル可シ

第四十六條

假出獄ヲ許サレタル者刑期満限ノ日ニ至レハ假出獄證票ヲ警察所ニ還納シ警察所ヨリ證票ヲ出シタル獄司ニ遞送ス可シ主刑満限ノ後監視ニ付ス可キ犯人ナル時ハ警察所ニ於テ第二章ノ例ニ從テ處分ス可シ

○愛媛縣(十五年一月十六日伺)内務省合議

第十四條同則第四十六條末項ノ場合ニ於テ假出獄証ヲ典獄ニ遞送シ其典獄ヨリハ更ニ第二十三條ノ書類ヲ送付スヘキ義ニ候哉果シテ然ラハ右書類到達セサル内モ警察官ハ第二章ノ例ニ從ヒ取扱置可然哉

指令第十四條刑法附則第四十三條ニ依リ第二十三條ノ書類ハ假出獄者ト共ニ典獄ヨリ犯人住居ノ地ノ警察所ヘ送附スヘキヲ以テ警察官ニ於テハ主刑満限ノ日更ニ右書類ノ送附ヲ受クルモノニ非ス直ニ第二章ニ依リ取扱フ可シ

○京都府(十五年二月卅一日伺)内務省合議

第三項刑法附則第四十六條ニ仮出獄ヲ許サレタル者刑期満限ノ日ニ至レハ假出獄証票ヲ警察署ニ還納シ警察所ヨリ証票ヲ出シタル典獄ニ遞送スヘシト有リテ又監獄則假出獄ノ証票ニ此者ハ假出獄ノ裁可アリタルヲ以テ本日出獄ヲ許シ何地ヲ通過シ居住スヘキ何地ヘ約子何日迄ニ到着シテ即時其地ノ警察官ニ届出テ此証書ヲ納メタル上云々ト有之是ニ由テ之ヲ觀レハ曩ニ獄司ヨリ下付セラレタル証票ハ已ニ警察所ヘ納メタル者ニテ最早犯人

ノ手ニハ無之筈ナリ然ルニ刑期満限ノ日ニ至リ尙又右証票ヲ警察所ヘ還納セシムル様相見ヘ取扱方疑義ヲ生シ候ニ付如何相心得可然哉

指令第三項監獄則假出獄証票離形中ニ納メタル云々トアルハ唯之ヲ警察官ニ差出シ閱覽ニ供スルニ止リ還納スル義ニアラス

○京都府(十五年三月卅一日付)内務省合議

第四項刑法附則第四十七條ニ假出獄ヲ許ス可キ者住所ナク及ヒ引取人ナキ時ハ第三十二條ノ例ニ從ヒ監獄中ノ別房ニ留置ス可シトアリテ全第三十二條ニハ監視ニ付スル者住居ナク及ヒ引取人ナキ時ハ其期限間監獄中ノ別房ニ留置シ工業ヲ爲サシメ又ハ使役ニ供ス住居遠地ニ在テ歸着スル資力ナキ者亦同シト有之然ルニ全第三十三條ニ監中ノ別房ニ留置シタル者云々トアルハ右兩條ニ關セシ者ニテ假出獄及ヒ特別監視ニ付ス可キ者モ住居遠地ニ在テ其歸着スル資力ヲ得タル時ハ其地ニ送致シテ殘期ノ監視ヲ執行セシム可キ義ト相考ルモ右第四十七條ニ住居遠地ニ在テ歸着云々ノ明文無之ヨリ聊カ疑團ヲ生シ候
指令第四項刑法附則第三十二條第三十三條ト同様處分スル儀ト心得可シ
(理由)第四十七條ニ住居遠地云々ノ明文ナキモ第三十二條ノ例ニ從ヒ云々トアルハ本文ノ通ニテ妨ケナカル可シ

第四十七條

假出獄ヲ許ス可キ者住所ナク及ヒ引取人ナキ時ハ第三十二條ノ例ニ從ヒ懲治場ニ留置ス可シ

十四年十二月二十八日

内閣書記官ヨリ正誤

第四十七條ノ(懲治場ニ留置)ハ(監獄中ノ別房ニ留置)ノ誤

○本省第九屆(十五年二月十八日照會)

全 月廿五日回答

明治九年第六十三號公布証人並無罪解放ノ等旅費支給方規則
中ノ義ハ刑法附則第四十八條ニ照シ其金額ヲ定メ支給方ハ右第
六十三號公布ニ據リ地方廳ヨリ支出シ免訴又ハ無罪解放ノ旅費
ハ附則中明文無之ニ付第六十三號公布ニ照シ旅費並滞留日當額
ヲ定メ其支出スルト否トハ治罪法第三百七條ノ通り宣告書ニ據
リ確定スル筋ニ候哉果シテ然ラハ刑法附則ト九年第六十三號公
布トハ兩立施行ノ義ト心得可然哉

回答証人及ビ免訴無罪ノ旨渡テ受ケタル者旅費支給方ニ付明

治九年第六十三號公布ハ刑法附則ト兩立施行ノ義云々御照會
ノ趣ハ御意見ノ通ニテ差支無之様考量致候

○山田始審廳檢事(十五年一月十五日請訓)

全 年二月二日內訓

第七條召喚狀送達ノ賃錢ハ其性質裁判費用ニ屬ス可キモノナル
ベシト雖モ刑法附則ニ掲記シナキヲ以テ裁判官檢察官ノ求メニ
因テ發シタル召喚狀送達ノ賃錢ハ官費ニ屬スベキモノニ候哉

內訓第七條召喚狀ノ賃錢ハ結局敗訴者ヨリ償ハシム

○奈良始審廳檢事(十五年十月廿二日質問)

全 年十一月二日回答

第四章 刑事裁判

費用

第四十八條

豫審公判ニ付キ呼出
シタル證人醫師鑑定
人通辨人翻譯人ニ給
與スベキ日當旅費止
宿料及ビ第五十一條
第五十二條ニ記載シ
タル者ヲ以テ刑事ノ
裁判費用ト爲ス

第五條刑法附則第四章ニ刑事裁判費用トアリテ別ニ區別無キヲ

以テ見レバ公訴私訴ノ裁判費用ヲ併セテ云フ者カ

回答第五條公訴ノ裁判費用ヲ云フ

○彥根始審廳判事(十五年三月四日簡訓)
 第一條刑法附則第四十九條ニ住居三里以外ノ地ニ在ル者ハ往復
 旅費ヲ給シ及ビ呼出ノ地ニ滞在中ハ日當並ニ止宿料ヲ給ス其三
 里未滿ノ地ニ在ル者ハ旅費止宿料ヲ給セズトアルハ其三里未滿
 ニシテ滞在セザルハ止メ日當ノミヲ給シ又三里以外ノ者ヨシテ
 滞在セズ着到ノ即日訊問鑑定等ヲ爲シ又即日退歸ヲ命セシ者ハ
 只往復旅費ノミヲ給ス可キ義ニ之レアル歟
 内訓第一條見解ノ通

第四十九條
 日當旅費及ビ止宿料
 ノ金額左ノ如シ
 日當 五十錢
 旅費一里 拾錢
 止宿料一宿貳拾五錢
 住居三里以外ノ地ニ
 在ル者ハ往復旅費ヲ
 給シ及ビ呼出ノ地ニ
 滞在中ハ日當並ニ止
 宿料ヲ給ス其三里未
 滿ノ者ニ在ル者ハ旅
 費止宿料ヲ給セズ

第五十條
 證人ノ日當及ビ止宿
 料ハ本人ノ請求アル
 ニ非ザレバ之ヲ給與
 セズ

第五十一條

證人日稼キヲ以テ生業トスル者治罪法第百九十條ニ從ヒ價金ヲ要求スル時ハ旅費日當ノ外若干ノ價金ヲ給スルヲアル可シ

證人ノ日稼キヲ以テ生業トスル者治罪法第百九十條ニ從ヒ價金ヲ要求スル時ハ旅費日當ノ外若干ノ價金ヲ給スルヲアル可シ

第五十二條

解剖舍密等ノ費用及ヒ數多ノ時間ヲ要スル翻譯料ノ類ハ日當ノ外別ニ之ヲ給與ス可シ

解剖舍密等ノ費用及ヒ數多ノ時間ヲ要スル翻譯料ノ類ハ日當ノ外別ニ之ヲ給與ス可シ

○山田始審廳檢事(十五年一月十五日請訓)

第八條刑法附則第五十三條ニ裁判費用ノ宣告ヲ受ケ未タ之ヲ納メサル前ニ於テ犯人身死スルモ其相續人ヨリ徵集ストアリ其納メサル前トハ裁判確定後ノモノニ限ル手未タ裁判ノ確定セサル前ニ於テ犯人身死スルモ公訴ノ消滅スルハ勿論ニシテ無罪純白ナル人ノ死シタルト異ナルヲ然ラハ則チ裁判確定前本入死亡ニ根本タル公訴已ニ消滅スレハ其枝葉タル裁判費用ノ言渡ノミ獨リ存スルノ理由ナキカ如シ然リト雖モ贓物ノ返還損害ノ賠償及ヒ裁判費用ハ同ク財産ニ負擔スル義ナルモ罰金ト異リ刑罰ニ非サルヲ以テ裁判確定前犯人身死スルモ相續人ヨリ於テ之ヲ擔當セサルヲ得サル者乎

指令第八條裁判確定前被告人死去シタル時ハ其相續人裁判費用ヲ辨償ス可キ責ナキ者トス

(理由)裁判確定前被告人身死スレハ其被告人ハ未タ裁判費用ヲ償還ス可キノ義務ヲ負擔セズ公訴ノ消滅セタル者ナレハ其相續人モ亦其費用ヲ辨償スルノ責ニ任セサルヘシ凡ソ相續人ハ死者ノ得タル權利ト負擔シタル義務トノ外ハ相

第五十三條
裁判費用ノ宣告ヲ受ケ未タ之ヲ納メサル前ニ於テ犯人身死スル時ハ其相續人ヨリ之ヲ徵收ス

續シタル者ニ非サル也

刑事裁判費用

○愛媛縣(十五年一月十六日伺)内務省合議

第十五條同則第五十四條贓物犯人ノ手ニ在リ直ニ被害者ニ還付スルハ總テ裁判官ノ職掌ニハ有之候得共犯人ヲ取押タル地ヨリ隔地ノ檢事ヘ送付スル歟又ハ被害者貧困難ノ場合或ハ物件重量ナル時等ハ司法警察官ニ於テ仮ニ還付又ハ保管シ置其受取書ヲ犯人ト共ニ檢事ヘ送付シ可然哉

但本文運搬費及保安料ヲ要スルハ其保安料ヲ要スルハ其保安料等ハ警察費ヲ以テ支辨スヘキ義ニ候哉

指令第十五條同ノ通

第十六條同條若シ贓物輾轉シテ他人ノ手ニアル時司法警察官ニ於テ之カ賣買停止等ノ手續ヲ爲サハレ時ハ右物品ノ持主人逮捕ノ事ヲ聞ケハ他ヘ賣却若クハ隱匿等ナスモ計リ難キニ付被害者ノ請求アレハ仮ニ右處分ヲナシ其受書ヲ檢事ヘ送付シ可然哉

指令同ノ通

○尾道始審廳判事(十五年七月二十日請訓)

刑法附則第五十四條ニ若シ輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時ハ被害者ノ請求ニ依リ還給セシムト有リ右ハ其品物ノ所在典物トシテ受

第五章 賠償處分

第五十四條

贓物犯人ノ手ニ在ル時ハ直チニ被害者ニ還付スト雖モ若シ輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時ハ被害者ノ請求ニ因リ還給セシムル者トス

ケタル者等直刑事裁判所ヨリ喚出シ還給ヲ命スルニ止ル儀ト心得可然哉果シテ然レハ典物トシテ受タル者等ノ實否ハ公判判事於テ取糾ス儀ニ有之候哉此場合ニ至テ喚出タル者其品物ヲ受ケ居ラサル事實判然候節ハ其喚出ノ入費旅費ノ如キハ如何必得可然哉

内訓贓物輾轉シテ他人ノ手ニ在ル者處分方ノ件ニ付請訓ノ趣被害者私訴ヲ爲シタル時ハ公判判事ニ於テモ之ヲ取糾ス可キ者トス喚出入費ハ喚出ヲ請フタル者ノ負擔ニ歸スル儀ト必得可シ

○栃木縣(十五年二月三日伺)

第三條刑法附則第五十四條ニ贓物犯人ノ手ニ在ルキハ直ニ被害者ニ還付ストアリ

右ハ司法警察官ノ捕拿シタル犯人現ニ携フル贓物夥多ナルキハ實際運搬ノ不便尠カラサルニ付其被害者明瞭ナル者ニ限り犯人ノ承諾ヲ得レハ本條ニ準テ直ニ其贓品ヲ被害者ニ還付シ其簡取證書ヲ以テ所轄裁判所ニ引繼可然乎

指令第三條犯人ノ承諾アラサルモ仮ニ被害者ニ下渡シ置ハ苦シカラス

第五十五條

贓物輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時公商ニ由リ買取シタル物品ハ其公商若クハ被害者ヨリ買取者ニ原價ヲ償ハサレハ直ニ還給セシムルヲ得ス若シ公商ニ由ラスシテ買取シタル物品ハ其還給ヲ拒ムヲ得ス但其買取者ハ賣者ニ對シ轉償ヲ求ムルヲ得

第五十六條

贓物ヲ受ケスハ典物
トシテ受取タル者其
贓物現在スル時ハ還
給ヲ拒ムコトヲ得ス其
典物トシテ受取タル
者ハ典主ニ對シ轉償
ヲ求ムルコトヲ得

第五十七條

贓物ヲ交換シテ現在
スル時ハ公商ニ由ル
ト否トテ區別シ第五
十五條ノ例ニ從テ處
分ス可シ

第五十八條

贓物已ニ費用シタル時又ハ識別ス可カラザル時又ハ其所在ノ知レサル時ハ損害ノ賠償ヲ請求スルヲ得

○大曲治安廳判事

十五年三月廿三日請訓
全 年四月十四日内訓

刑法附則第五十九條ニハノ名譽若クハ殺傷ニ關シタル損害其他犯罪ノ爲メ現ニ生シタル損害ハ其賠償ヲ請求スルヲ得但失火ハ此限ニ在ラスト之アリ右ハ賃借主ノ其借受ケシ家屋ト又ハ無賃ニテ各町村共有ノ家屋ヲ郡役所若クハ戸長役場等ニ借上ケ相用ヒ失火シテ之ヲ燒燬スルト又或ハ自宅ニ火ヲ失シ人ノ家屋ニ延燒スルトノ別ナク渾テ失火ハ賠償ヲ請求スルノ限ニアラサルヤ

刑法附則中失火ノ件ニ付請訓ノ趣ハ其見解ノ通

第五十九條

人ノ名譽若クハ殺傷ニ關シタル損害其他犯罪ノ爲メ現ニ生シタル損害ハ其賠償ヲ請求スルヲ得但失火ハ此限ニ在ラス

第六十條
 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ其犯罪ヲ審判スル刑事裁判所ニ請求スルコトヲ得若シ其審判已ニ終リタル後ハ民事裁判所ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第六十一條

第六十一條
 刑事裁判所ニ於テ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ請求スル者ハ通常ノ文書又ハ言語ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得其民事裁判所ニ請求スル者ハ民事訴訟ノ程式ニ從フ可シ

第六十二條
 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ本犯死スル時ハ其相續人ニ對シ之ヲ要求スルヲ得

第六十三條
 贓物ノ還給損害ノ賠償ノ宣告ヲ受ケタル者還給賠償セサル時ハ被害者ヨリ更ニ民事裁判所ニ身代限ノ處分ヲ請求スルヲ得

刑法附則令訓集終

刑法令訓集正誤

指令伺ノ部

本文ノ部

四十三	卅五	卅二	卅一	廿九	廿八	二十四	二十一	十八	十七	十二	同	十一	七	丁	行	誤正	丁	行	誤正								
八	十	五	九	六	五	十二	四	十三	八	十七	十三	八	七	七	行	處斷ノ下ヲ脱ス	五	十四	懲ノ下役ヲ脱ス								
而ノ各ハ右	可ノ下ハ併	九月十一日ハ併	舊ノ下刑ヲ脱ス	舊法ノ刑名モハ併	第三條同ノ條ハ同條ノ顛倒	犯ノ下シヲ落ス	リノ下處ノ字ヲ落ス	處斷シタル下ルヲ脱ス	前發ノ輕ハ刑	新法ハ舊	按スノ下スハ併	言渡ノ下シハ併	處斷ノ下方ヲ脱ス	行	言渡ノ下シハ併	按スノ下スハ併	新法ハ舊	前發ノ輕ハ刑	處斷シタル下ルヲ脱ス	リノ下處ノ字ヲ落ス	犯ノ下シヲ落ス	第三條同ノ條ハ同條ノ顛倒	舊法ノ刑名モハ併	舊ノ下刑ヲ脱ス	九月十一日ハ併	可ノ下ハ併	而ノ各ハ右
四百廿八	四百十七	二百八十七	二百八十六	二百七十三	二百七十三	二百七十	二百七十	百九十	百九	六十三	十三	十	五	丁	十	十三	六十三	百九	百九十	二百七十	二百七十	二百七十三	二百七十三	二百八十六	二百八十七	四百十七	四百廿八
六	二	七	九	四	四	八	八	四	四	二	九	七	十四	行	七	九	二	四	四	八	八	四	四	九	七	二	六
消滅ハ滅	戸ハ故	至ルハ止	但前發ノ刑ニ通算ハ併	狀ハ犯	刑ニノ八字ヲ脱ス	犯共ニノ下定役ニ服ス	稱スルニハハ	轉帳シテ他人ハ他	内地ノ下ノヲ脱ス	指ノ下令ヲ脱ス	金額ノ下ヲノ字ヲ脱ス	懲ノ下役ヲ脱ス	懲ノ下役ヲ脱ス	行	金額ノ下ヲノ字ヲ脱ス	指ノ下令ヲ脱ス	内地ノ下ノヲ脱ス	轉帳シテ他人ハ他	稱スルニハハ	犯共ニノ下定役ニ服ス	刑ニノ八字ヲ脱ス	狀ハ犯	但前發ノ刑ニ通算ハ併	至ルハ止	戸ハ故	消滅ハ滅	

五十二 五十一 九十 七 百一 百七 百十 百十 百十一 同 同 百十二 如十五 百廿二 百廿五 百廿八 百四十四 百四十六 百四十六

明治 電報 鹿兒 第四ノ下 振合ニ倣 ヒカ倣 物件等ノ刑ハ 申ルカ如クハシ 以テノ下照チ脱ス 司法省ハ官 檢事ニ送ノ下付チ脱ス 毛時定ハ特 犯罪ノハ人 シテ其ハ某 十三日ノ下伺チ脱ス 裁判所ハ官 ナカノ下ルチ脱ス 於ノ下テチ脱ス

四百五十二 四百八十八 六百三十九 六百四十三 七百五 七百十五 七百四十 七百四十 八百一 八百二 七 七 九 八 二 七

章ハ節
 不ノ下ルチ脱ス
 宥恕ニ可キ罪ハ宥
 恕ス可キ罪ハ宥
 壁ハ凡
 日ノ下一チ脱ス
 一ハ不用
 水ヲ害ハ水害ヲ
 但船中ハ無期徒刑死亡
 ナキ時ニ處スハ但船中
 死亡ナキ時ハ無期徒刑
 ニ處ス

二百七 二百十二 二百十七 二百廿九 二百卅一 二百卅四 二百卅七 二百四十三 二百四十八 二百六十一 二百六十三 同 二百六十四 二百七十

前解釋段ハ前段解釋ノ顛倒
 科ノ下ニスチ脱ス
 料ノ下ニスチ脱ス
 理アハナ
 サルノ下ハチ脱ス
 言ノ下渡チ脱ス
 言渡スヘキモノダハトス
 辨別ハ明
 可キ哉ハ平
 四月ノ下チ脱ス
 第二條ハ項
 利チニ處ハ衍
 一處チ脱ス
 徴ハ懲
 窃ハ窃
 窃ハ窃
 刑法第百ハ衍

百四十八 十一
 同 十一
 百五十 一
 百五十一 七
 同 十四
 百五十二 十六
 百五十九 十二
 百六十二 七
 同 十五
 百六十三 六
 百七十二 二
 百七十八 九
 同 十
 同 十一
 百八十 九
 百八十九 十四
 百九十五 九

場合ニ付テハ於
 被害者ニノ下ニ還テ落ス
 十四年十ノ下ニ脱ス
 者ヲハニ
 第一條ノ下舊ヲ脱ス
 刑期滿期ハ限
 其免ノ間ニ假ヲ脱ス
 六月七日付ノ下監ヲ脱ス
 數外ニ出タルノ下ニ時ハ其出タルノ六字ヲ脱ス
 告發ノ下ヨリヲ脱ス
 言渡ノ下ニシテ脱ス
 悔悟改悛ノ下狀ヲ脱ス
 迷誤ニ因テ罪ノ下ヲノ字ヲ脱ス
 一事情アルノ下如テ脱ス
 經タルモノ者ハ衍
 多數經ハ輕
 准擬諸ハ請

二百七十三 二
 二百七十七 十五
 二百八十二 十
 二百八十三 二
 二百八十三 五
 二百八十九 十三
 二百九十四 五
 三百十七 八
 同 二十
 三百四十九 十二
 三百六十三 六
 三百六十五 二
 三百六十七 四
 同 十五
 三百六十九 二
 三百七十一 十四
 三百七十五 二

第十九條ハ第九十七條
 其犯人ヲ毀傷ハ毆
 罰ハ罪
 罰ハ罪
 窃盜ハ取
 犯セサハ衍
 俱罪ハ發
 第四項ノ下刑法ヲ脱ス
 第十六條ノ下刑法ヲ脱ス
 ヒ其所ハ某
 ヒタノ下ルヲ脱ス
 終身ノ九ハ四
 即失來ハ矢
 囚徒及ヒハ再
 指スハノ下假ハト脱ス
 官ハ署
 第四十七ノ下條ヲ脱ス

三百一十六 七
 三百八十七 六
 四百六十三 七
 五百一 三
 五百八十四 十四
 五百三十四 三
 五百四十六 三
 五百五十四 七
 五百六十 十七
 五百八十二 十二
 五百八十四 七
 五百八十五 十二
 六百二十六 二
 六百四十四 七
 六百六十一 十
 六百六十九 九
 六百九十二 二

子キヲハヤ
 隱蔽ハ蔽
 印ノ下ニテ脱ス
 九條二ノ下ハテ脱ス
 シタリ下ルヲ脱ス
 又及害ハ危
 賑考ハ術
 戲戯ハ志
 連用ハ適
 司法相察ハ警
 亦國法ハ同
 勿論其他ハ地
 者トスノ下トテ脱ス
 甲大ハ太
 問接ハ間
 遣族ハ還
 戸籍ノ下上ヲ脱ス

六百九十三 十五
 七百八 十五
 七百十五 十五
 七百二十 五
 同 七
 七百二十六 六
 同 七
 七百二十二 六
 七百廿四 十七
 七百廿七 六
 七百三十八 三
 七百三十七 十七
 七百三十二 五
 同 十
 七百卅四 五
 七百三十四 十一
 七百三十五 五

タルハリ
 適ノ下用ヲ脱ス
 以テハテ
 觀シハレ
 ノミニシハアリ
 シタノ下ルヲ脱ス
 竊盜ハ取
 六十條トハニ
 拜借ハ借
 刑法ノ下第ヲ脱
 七其同居ハ條
 仮命其竊孫之テハ孫之ヲ窃ノ顛倒
 蒲團ヲハ
 シタノ下ルヲ脱ス
 至ラハテ
 表剥ハ携
 行フニハテ

七百五十五 十三 幾十有ハ百
 同 十四 掲書ハ盡
 七百六十八 七 旨ニハチ
 七百七十九 一 二十ノ下、三ハ二
 同 八 其地ハ他
 同 十四 其地ハ他
 七百八十八 四 伺ハ指
 七百九十二 十七 ルキハ他
 八百十一 二 割注往ノ下來ヲ落ス
 同 八 往來ノ下ヲ字ヲ脱ス
 八百十九 十五 罪犯ハ違
 八百廿四 十 者アリハレ

刑法附則令訓集正誤

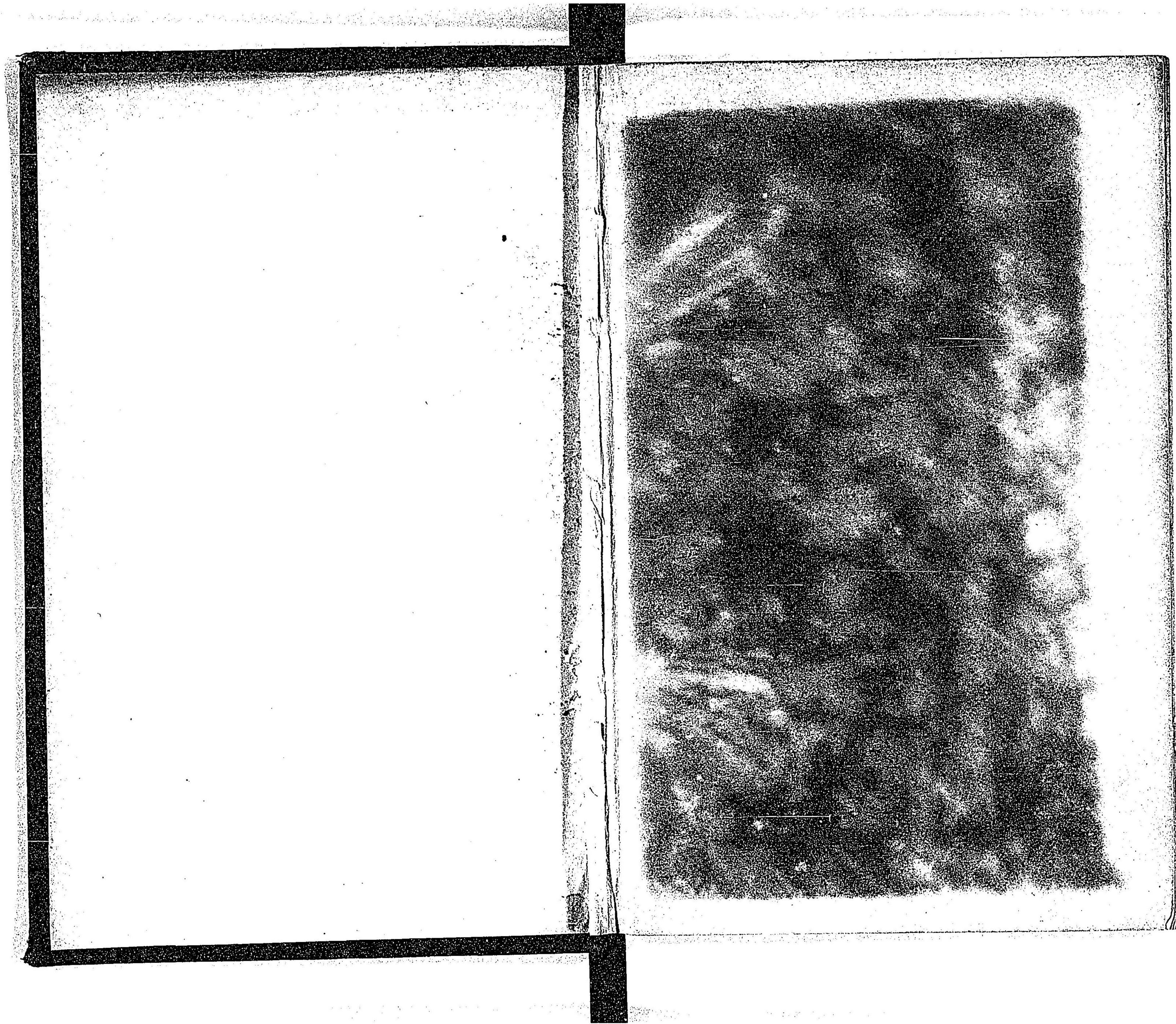
丁 行 誤正
 廿四 十 軌ハ軌
 廿八 三 其ハ者
 五十九 十 無無ハ論
 同 十六 可ヘキハ符
 七十八 三 中ノ下証人ヲ脱ス
 八十七 三 於テノ上ニテ脱ス

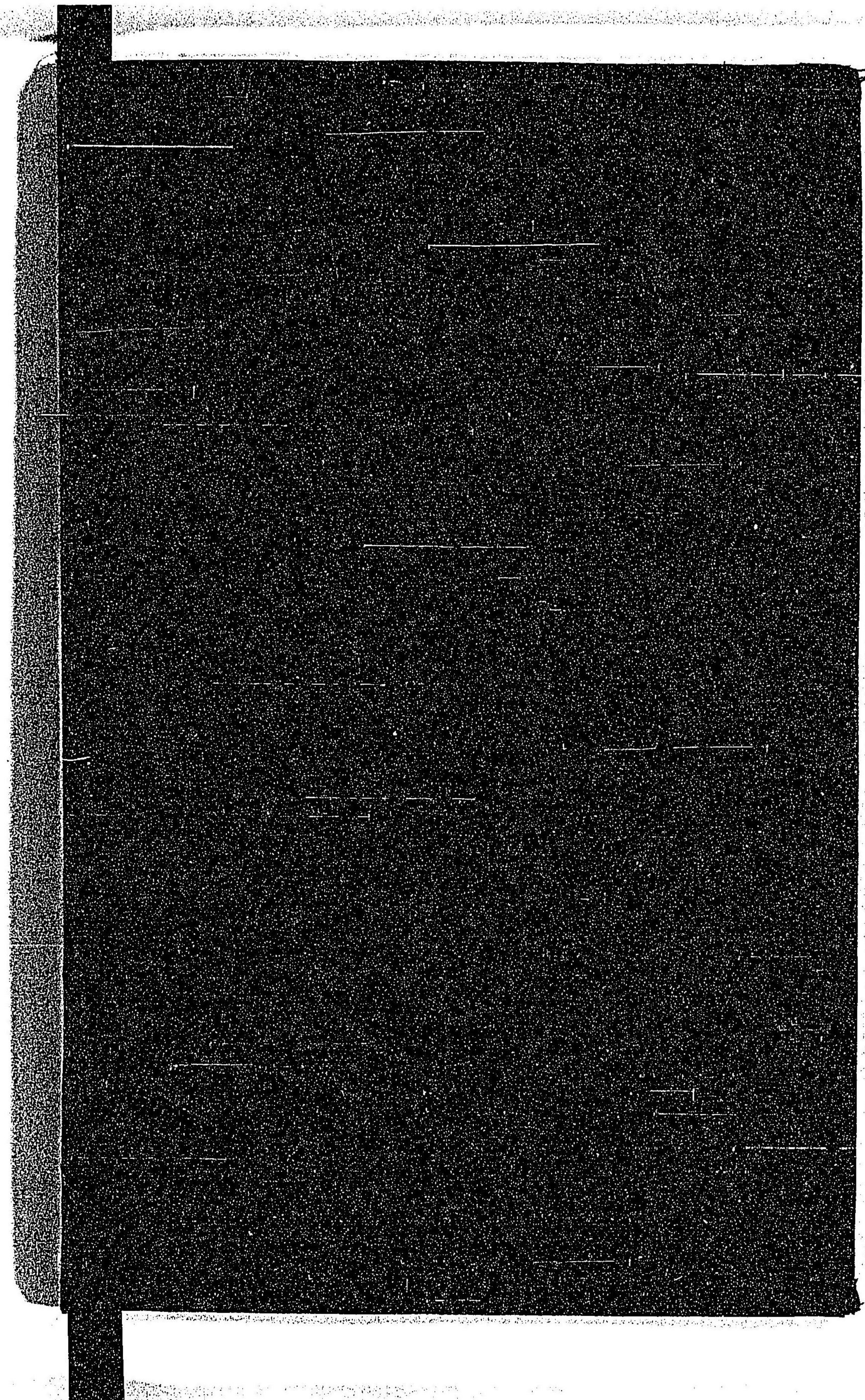
本文ノ部

丁 二 行 誤正
 五 但ハ但

明治十六年五月二十八日出版 友權局

禁發







035964-001-8

CZ-711-022

刑法令訓集並附則

富岡門前警察署／編

M16

BBP-0564



